

「上毛新聞」文芸関連記事リスト【6】

昭和3年(1928)4月～昭和4年(1929)3月

市川祥子

※「上毛新聞」の中から、小説・詩歌等の

創作と、文芸に深く関わりと考えられる評論とをリストアップした。今回は、昭和3年(1928)4月から昭和4年(1929)3月を対象とした。

※①は第一面であることを、朝①は朝刊の第一面であることを、夕①は夕刊の第一面であることを示す。

※連載は初回のみを示し、() に終了日と回数とを付した。

※(1)は第一回であることを示す。

※*は判読が不能であることを示す。

※明らかにそれと分かるものについては

「民謡」とした。

昭和3年(1928)4月

1日(日)

朝④中央文壇の諸大家に本県の景勝紹介の計

画

夕③江原小弥太氏に 竹内亀松

夕③思案橋、ばらばら松「民謡」 大鳥居金一

郎

夕③民謡集を読む 菊沢茂

夕③早春随筆 斉藤春夫

夕③春の詩「詩」 村山徳栄

夕③半田歌会詠草「短歌」 小池雅風、中沢太郎、村上きぬ、碎月、二宮浅吉、宮下芳夫、小沢麻一郎、高橋六市、玉拔、村上

順子、樋口夫拓、秋声、順平、黒崎冷月

夕③折にふれて「短歌」 田中幸子

夕③春雑詠「短歌」 角田節子

2日(月)

朝③本社協賛の大演奏会 演奏の曲目決定す

3日(火)

夕③少年求職者激増と志望傾向の偏頗 滲み

込んだ労働思想 雇傭者側の考慮必要

東京府立職業紹介所長 豊原又一(談)

夕③子供の情操陶冶に無関心になり勝ち 大

人の理解により社会的な施設緊急

5日(木)

朝②京都市会も賛成して三条橋畔に高山先生

の銅像 建設いよ／＼具体化

朝④江戸京艶史 悶え二ツ玉川の水「小説」

橋場鮎刺 (5月12日(33))

夕③不安多き近代都市 頻発する交通事故 紐

育市街の救護自動車 平面交叉は廿世紀

の地獄

夕③八犬伝の出来た動機は何から? 酒井伊

予守の飼ひ犬の伝説

夕③牧場の小音楽家「童話」(1) 原沢柳志

(4月18日(5))

6日(金)

夕③お釈迦様は生誕して今年で二千四百四十

三年目

夕③高女卒業のみでは婦人も就職に困難 地

方の新卒業者よく考へよ 春先に多い無

定見者を戒む 豊原又男(談)

7日(土)

朝③埋れ木に花を咲かせた婦人唯一の相談所

相愛館の近況

朝③香雨先生逝去三周年「上毛文徳碑」建立

の議起る

朝④警保委員会が公娼問題研究

夕②故郷の人と物 川口準太郎

8日(日)

夕②郷土的芸術 塚本茂氏個人展 本社楼上で

八日から

夕③演劇運動を起せ 北浦暉八

夕③勝軍地蔵尊「短歌」 横山良輔

- 夕③我が断片 田中幸子
夕③寂情「短歌」 田村秋二
夕③沙漠の星 素地文村
夕③東毛新短歌会の記 大槻三好
夕③東毛新短歌会「短歌」雑誌 西村陽吉、柿沼正雄、工藤一衛、永瀬英一、川崎与志夫、大槻三好、荒井一郎、高橋徳次郎、町田茂、栗原啓次郎、久保健二、関根不二、佐藤華春
- 9日(月)
朝⑦故篠原香雨先生の為め「上毛文徳碑」建設発企人会開かる 県下朝野の名士一堂に会して
朝⑦まことに美拳極めて当然の計画 文徳碑建設発企人会にて 大森本県知事(談)
- 10日(火)
夕③赤門博士の新運動 恩師への署名請求復活された卒業式と新現象 小野塚総長代理をペン攻め
夕③仏教音楽の起源とルンビニー楽壇 仏教の発展と共に音楽の将来も多望 高桶順次郎(談)
- 11日(火)
夕③家庭的生活から始ての学校生活 新入学児童をもつ親は学校生活に親しませよ 堀七蔵(談)
夕③短かい四つのお話「童話」(1) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(2) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(3) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(4) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(5) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(6) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(7) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(8) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(9) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(10) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(11) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(12) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(13) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(14) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(15) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(16) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(17) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(18) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(19) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(20) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(21) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(22) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(23) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(24) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(25) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(26) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(27) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(28) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(29) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(30) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(31) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(32) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(33) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(34) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(35) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(36) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(37) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(38) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(39) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(40) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(41) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(42) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(43) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(44) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(45) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(46) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(47) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(48) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(49) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(50) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(51) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(52) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(53) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(54) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(55) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(56) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(57) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(58) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(59) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(60) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(61) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(62) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(63) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(64) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(65) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(66) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(67) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(68) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(69) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(70) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(71) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(72) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(73) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(74) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(75) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(76) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(77) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(78) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(79) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(80) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(81) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(82) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(83) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(84) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(85) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(86) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(87) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(88) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(89) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(90) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(91) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(92) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(93) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(94) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(95) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(96) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(97) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(98) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(99) 畑喜代司
夕③短かい四つのお話「童話」(100) 畑喜代司
- 夕③観桜慰安の酒が業務上障害の酒昔と違ふ現代の社会生活 酒から来る翌日の疲労 禁酒同盟会 杉浦博士(談)
夕③不良児童は家庭で病人として取扱へ責むる前にまづ保護せよ 東京少年審判所 少年保護司 保美駒蔵(談)
- 13日(木)
朝④時代の要求に鑑み教育の社会化 社会教育局の実現に文部省主脳部画策す
夕③学業の暇な春に不良性は芽生ふ 外からのみ伝染せぬ 心の動きに注意せよ
- 14日(土)
朝③子供の絵や音楽 指導者の向上 小学校の先生がたに研究機関は緊急必要 長尾豊(談)
夕②満州より故郷へ 旅順駐劄歩兵第十五聯隊第一中隊歩兵軍曹 斉藤三郎
夕③修業仕直しも居る就職難の深刻さ 最も困るのが腰掛就職者 古川東京職業補導会 会参事(談)
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(1) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(2) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(3) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(4) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(5) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(6) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(7) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(8) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(9) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(10) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(11) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(12) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(13) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(14) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(15) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(16) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(17) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(18) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(19) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(20) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(21) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(22) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(23) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(24) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(25) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(26) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(27) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(28) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(29) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(30) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(31) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(32) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(33) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(34) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(35) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(36) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(37) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(38) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(39) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(40) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(41) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(42) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(43) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(44) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(45) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(46) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(47) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(48) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(49) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(50) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(51) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(52) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(53) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(54) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(55) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(56) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(57) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(58) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(59) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(60) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(61) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(62) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(63) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(64) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(65) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(66) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(67) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(68) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(69) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(70) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(71) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(72) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(73) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(74) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(75) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(76) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(77) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(78) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(79) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(80) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(81) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(82) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(83) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(84) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(85) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(86) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(87) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(88) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(89) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(90) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(91) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(92) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(93) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(94) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(95) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(96) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(97) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(98) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(99) 井上康文
夕③チャップリンと煙草と月「童話」(100) 井上康文
- 夕③新短歌会詠草「短歌」 金 西村陽吉、川崎与志夫、大槻三好、永瀬英一、栗原啓次郎、町田茂、久保健二、柿沼正雄、荒井一郎、高橋徳次郎、工藤一衛、佐藤華春、関根不二
夕③上毛春季短歌大会「短歌」 橋田東声、須藤泰一郎、飯田莫哀、阿部鳩雨、角田蒼穂、猿田如流、田島武夫、富沢英出子、田中翠嵐、鈴木旭山、松浦巖、松浦元男、金田興一、靱山山人、折茂幸子、松井善吉、松井水枝、早水城春、吉田緑泉
夕③病院生活「短歌」 青山丈夫
- 17日(火)
夕①暗影を孕んでにらみ合ふ 文部省と各帝 国大学
夕③子供に童話を聴かす時の注意 国民性の相違から弊害を伴ひやすい 久留島武彦(談)
夕③四月「詩」 沢沢志満子
夕③春に浮かれて無職で当度なく上京するな 裸一貫主義は明治の昔話 更に誘惑の魔手は動く 警視庁人事相談課員(談)
- 18日(水)
朝②左傾教授処分 社会科学研究団体解散に 対しては各大学とも文部省方針に基づく
夕①外国婦人が歌舞伎劇を研究 菊五郎丈を 招聘して二十八日講演を聴く
夕③御大典を記念して禁酒会の拡大運動 禁酒週間に於ける三大決議 郷土禁酒化禁

酒教育普及

- 夕③職業婦人として立つ若き女性の心構へ
意志を鞏固に潑刺たる気持ちで実社会に
望め 文部省実業学務局長 白上佐吉
(談)

夕③ゆく春「民謡」 市丸武二

19日(木)

朝③新緑の湯街に甦へるいかほ音頭 市丸武

二氏の新曲添え紅裙惣出で踊のお稽古

夕③酒は慰安を与へず家庭の愉悅を奪ふ更

に貧と罪とを導いてくる 明るい家庭生

活に帰れ 守屋東女(談)

夕③おろかな十姉妹「童話」(1) 幡谷澄男
(〜4月25日⑤)

20日(金)

朝④浮気娘「詩」 狩野とみち

朝④善悪ともに子供の親は鏡 戒心すべき家

庭の空気 東京市社会局保護課 村木ち

か子(談)

夕④京都より 岡部

21日(土)

夕③子供独得の空想は発育途上の一進歩子

供は空想と現実との差別を知らないため

注意が欠けると一大事 秋岡伝(談)

22日(土)

夕①塩原太助翁の碑 除幕式を挙行「今塩原」

の生方太吉翁が骨を折つて出来上る 此

の二十五日盛大に

夕③七日会詠草「短歌」 須藤泰一郎、天田秀

近、川端刺青、辰巳赤夫、池田広二、赤

木馬彦、角田蒼穂

夕③二人展に就いて 住谷磐根

夕③雨ばれ「短歌」 木村龜道

夕③よしなしごと 小須田薫

夕③民謡調 黄色い自然、煙つたい春、呆丹杏

の花、鉄橋「詩」 南小路莫

夕③春唱一束「短歌」 柳圭介

夕③落日の前に(覚書) (1) 豊田宏文
(〜4月29日②)

夕③昭和日本歌選を読む 大槻三好

23日(月)

朝②明治以来の大政治家 前橋修養会に於い

て(1) 横山健堂(述) (〜4月29日⑦)

24日(火)

夕②高山彦九郎先生邸跡保存会

夕②出雲より 岡部栄信

夕③参政権運動よりも母性としての婦人家

庭婦人は生の樹なら職業婦人は電柱のや

う 山田わか子(談)

25日(水)

朝③渋沢子爵等を迎へて塩原太助翁の記念碑

除幕式はいよいよ今二十五日塩原公園で

盛大挙行

夕③世間より嘲笑され肉親より厭はれる低能

児は何処へ行くでせう 東京府児童研究

所 深田広憲(談)

夕③映画の感化と児童 平野止夫(談)

夕③おぼろ月「詩」 吉屋三郎

26日(木)

夕③子供の不従順なのは健全なる証拠です

不従順だからとてむやみに叱るな 宮岡

武彦(談)

夕③欲張り男が夢を見たお話「童話」 弓場

駒二郎

27日(金)

朝④基準を社会に置く教育の社会化 夜間中

学容認産業教育其他私学助長労働教育

文相の新方針

夕①治安維持法改正 左傾者を厳罰

夕①利根郡の生んだ偉人 塩原太助翁記念碑

除幕式 塩原公園で二十五日

夕③最近唱へられる職業指導の教育 学校教

育も職業指導も適性的 従来の詰込的画

一主義でない 東京府立少年相談所長

(談)

夕③全国的連繋を持つ児童芸術祭 来月初旬

東京で之で二回目の催

夕③端午節句の由来 往昔よりの美しい風習

盛大になつたのは徳川時代から 中野鉄

太郎(談)

夕③幸福の約束「童話」(1) 福田正夫
(〜5月2日④)

28日(土)

朝③吉野山より 岡部

朝④女子青年団でも国歌団旗制定

夕②非人道的公娼廃止 全国的に請願運動先

づ地方議会より中央議会へ国民の総意を

表示せしむ

夕③不良少年に対しては直接的に教化せよ

病気にも予防と治療とある 社会的疾患

も治療と予防で

夕③内地に出稼ぎ中の朝鮮人の生活内状果

して恵まれて居るか 警視庁内鮮高等係

中村忠三郎(談)

29日(日)

夕③楽壇時事 赤倉清造

夕③近詠十首「短歌」 早水城春

夕③ジャンズ・ま江ばし情緒(久留馬橋通り)

設楽四郎兄へおくる「詩」 柳居青児

夕③早春スケッチ「詩」 金井七四郎

夕③幸福な時「詩」 佐藤はる子

夕③道普請「短歌」 木村亀道

夕③或る航海 ねもと

夕③木曾神社吟行記 七日会同人 天田孤雀、

須藤泰一郎、川端刺青、辰己赤夫

昭和3年(1928)5月

1日(火)

夕②十キロ放送開始に「群馬の夕」を草津

の湯もみ唄伊香保音頭俠客伝なども加へ

て

夕③愛児を旅立たす親御さんへ注意 遠足修

学旅行に親の取越苦勞は禁物 西野庸太

郎(談)

夕③飛鳥の昔を偲びつゝ全校挙つて菓草狩

春たけなはの多摩川原で 日出高等女学

校長 小林芳次郎(談)

2日(水)

夕②志願者の増減が語る不景気かぜの深刻さ

増えて行くのは師範に農業ばかり 減少

する中学と高女志望

夕③社会と親密になつた最近の図書館事業

お母さんから教育書の問合せ 文化生活

と該事業の利用拡充 東京日比谷図書館

小谷調査課主任(談)

夕③読書傾向から観た最近学生の氣質

夕③伝説「ドイツの民話」お化け葡萄酒

夕③山の娘よ「民謡」 萩原光男

夕③嫁入前の修業には遊芸より語学がいゝ

感心出来ぬ稽古所通ひ

3日(木)

朝②上毛文徳碑 六日地鎮祭を行ふ

夕③諸種の婦人雑誌から良い感化を受けよ

婦人は知識の消化力が男子より比較的鈍

い

夕③河原の柳「詩」 狩野とみぢ

夕③かいこの神様「童話」(1) 平野止夫

(5月9日⑤)

4日(金)

夕③非実質的が多い我国の礼儀作法 生活改

善は因襲の排除から 高波悟郎(談)

夕③芦の夢 古屋三郎氏におくる「詩」 針谷

章三

夕③百両位飲む人でも書物には唯の一円面

白い読書界の数的表現 ジョンブルでも

此の程度

5日(土)

朝③故篠原香雨先生の上毛文徳碑けふ地鎮祭

挙行

夕③地方人をめぐる誘惑の種々相 博覧会見

物も単独より成可く団体で来ること 警

視庁防犯係(談)

夕③旅の友に「詩」 桜井長幸

夕③子供に与へる玩具 お母様方への細かい

注意 小さいたましひはこれから育つ

水上由雄(談)

6日(日)

朝③風かほるきのふ上毛文徳碑の地鎮祭を執

行す 若葉の前橋公園で壮嚴に「篠原香

雨先生」(上毛文徳碑文の細註)

夕③代表的万葉集歌人と其の歌について 米

倉文二

夕③暮春断章、返事「詩」 村山十九枝

夕③歌集「良夜」

夕③懐疑、当然の真理 南小路莫

夕③冬の山家にて「短歌」 中曾根白史

夕③故郷行「短歌」 青山丈夫

夕③木曾神社吟行記(続) 赤木馬彦、池田広

二、角田蒼穂

夕③四月集「短歌」 田村秋二

夕③静江に捧ぐ「短歌」 邦冬子

夕③縁談「短歌」 角田節子

夕③近詠「短歌」 橋本達郎

夕③在京詠草「短歌」 永井澄夫

夕③日曜会第一回歌会詠草「短歌」 松井水

枝、根岸英二、松浦民謡、岩瀬繁、松浦
朱春、中野照雄、早水城春

7日(月)

朝②香雨先生の文徳碑 地鎮祭後祝宴

8日(火)

夕②関東州より 旅順駐劄歩十五ノ五(1) 竹
井上等兵 (5月9日②)

夕②満洲から 岡本保三

夕③家庭教育としての童話の書目

夕③新入学児童をもつ各家庭での諸注意

9日(水)

朝③平壤にて 岡本保三

夕③不良少年少女は三種類に分れる 子供の
心理状態を看過するな

10日(木)

夕③御大典記念事業として国民的禁酒を断行
せよ 禁酒は国家繁栄の基 飲酒は国家衰
亡の基 日本国民禁酒同盟総主事 水塩
完次(談)

夕③つばさ「詩」 藤田忠雄

夕③二人の百姓「童話」(1) 畑喜代司
(5月23日⑩)

11日(金)

夕③酒は一滴を慎しみ米は一粒を惜しめ酒
米と人口食糧問題 今は神酒も全廃せよ
陸軍少将 石川潔太(談)

12日(土)

夕③産児制限と公私娼の廃止 皮相的見解を
棄て、問題の根本に触れよ 日本妊娠調

16日(水)

節相談所長 小川隆四郎(談)

夕③愛児は叱る前にまづ褒めるやうに

13日(日)

朝④信念の教育 文部大臣 水野練太郎(談)

朝④江戸哀艷史 野の花二股咲き「小説」(1)
橋場鮎刺 (6月17日⑩)

夕③五月の手記 幼への博戯、古風な触感、屋
上庭園から、五月の動き／季節の星、観
音山による詩「詩」 上田えいじ

夕③蛙の声「詩」 大槻三好

夕③情炎「民謡」 茂木近之助

夕③「紫苑」について 原静枝

夕③歌経荘の一夜 辰己赤夫

夕③鶏 大沢真沙子

夕③ジャズ。まへばし情緒(榎町から紺屋町)
根岸毒二兄におくる「詩」 柳居青児

夕③おまへを憶ふ詩「詩」 東山東

夕③太陽を呼ぶ声「詩」 畑広治

夕③歯痛でねてる私「詩」 金井七四郎

14日(月)

朝③現詩壇の驍將三木露風氏 十九日夜前橋
市で 高貴な文芸の鑑賞を強調

15日(火)

夕③国家民族を支配する恐ろしい遺伝の力
瓜の蔓に茄子はならぬ 氏原佐蔵(談)

夕③殺風景な現世を浄化する音楽の偉力 近
代人は霊肉共に疲れてゐる 藤田三郎
(談)

16日(水)

夕③近代人はあまりに頭脳に頼り過ぎる青
葉時に多い神経衰弱 杉田正志(談)

夕③夏の花に因む歌と神話 花菖蒲百合向日
葵

夕③文芸講演会 善き精神の文芸に就て、民謡
詩に就て 三木露風「告知」

17日(木)

夕②農村振興と組合製糸の關係 金井銀水

夕③自学主義の教育と学校附属児童文庫教
師は生きた先生図書は物の先生ではない
か 日比谷図書館 小谷調査課主任(談)

夕③児童教養に基く公園の持つ意義 単なる
散策場から運動娯楽の場所に 藤沢衛彦
(談)

18日(金)

朝②労農事情 秋田雨雀(談)

朝②行賞の範囲を芸術家に及す賞勲局の芸術
賞 御大典までに実現計画

朝②左傾的出版物 神経過敏の警保局 かつ
ぱしから発禁

夕①伊香保に建つ徳富蘆花翁追懷碑 終焉し
た室の前庭に 十八日の命日に除幕式挙
行

夕②善勝寺安置の阿弥陀如来尊像にまつはる
不思議な伝説 村の人々の口碑に残る奇
蹟

夕③裁判の民衆化した実施される陪審制度
女性からも選任せよ 秋田熊一(談)

19日(土)

朝③一代の文豪蘆花翁永眠の地 伊香保千明

仁泉亭庭前に追憶碑きのふ除幕式

夕③温情主義の制度は女中雇人も行詰り最

近の大都市の女中難 将来は労資主義的

か

夕③諺から見た児童の心理 格言教育は時代

遅れ スコットホール日曜学校教師田

尻取(談)

20日(日)

夕③詩の本質的傾向 三木露風

夕③鏡を見つゝ 南小路莫

夕③七日会(子持山吟行) 詠草「短歌」須

藤泰一郎、高橋繁、高橋平三郎、天田孤

雀、辰己赤夫、阿久津*影、角田節子、

後藤福太郎、神保冷平、角田蒼穂

夕③無題「詩」 高橋加津二

夕③歌集「良夜」出版記念歌会「告知」

夕③黒崎武三郎君第二詩集「愛の肖像」に

柳居青児

夕③一情一景 妹嫁ぐ「短歌」 中曾根白史

夕③小鳩「短歌」 村山十九枝

夕③白倉神社に遊ぶ「短歌」 早水城春

夕③追慕頌二十首「短歌」 阿房宮

夕③開墾「短歌」 佐藤恒雄

21日(月)

朝②満州駐屯軍の慰問旅行を終えて(1) 松崎

(〜5月28日(9))

22日(火)

夕③都会人と雑誌購読 文学ものが第一位次

が社会政治評論もの 比較的に真面目な
もの

夕③少年児童の読書 科学と探偵趣味

夕③智能的合理的な不良モボモガの魔手 夏

は彼等の書き入れ時 我子に自惚れるな

警視庁不良少年係長 飯島三安(談)

23日(水)

朝④経済組織の欠陥を補ひ社会から貧乏を葬

れ 特に女性の奮起を望む

朝④つぼみの花「詩」 狩野とみぢ

朝④親の頭脳の種類と出産率の優劣関係 勞

働者は多産ドイツの調査

夕④伊香保音頭の放送

24日(木)

朝②上毛文徳碑に荒木京大総長撰文

夕③りこうな弟兔「童話」(1) 山下光雄

25日(金) (〜6月1日(7))

朝②上毛文徳碑 篆額は旧忍藩主 海軍中佐松

平子爵に依つて揮毫快諾さる

夕①学界に飛ぶ鳥を落す勢ひの荒木博士が門

下生に取捲かれつゝ物語る親の有りがた

味

夕③暗い社会の一断面 酒と犯罪の統計 日曜

の犯罪と飲酒関係 独逸と英国の監獄統

計(1)

夕③蛙鳴く夜「詩」 南雲義人 (〜5月26日(2))

夕③人口の増加率は年々減少するのみ 焦眉

の急は国民保健の大策 世界で一番死亡

率の多い日本

26日(木)

朝③桐生の機織唄を「群馬の夕」に加へて二

十九日放送

夕③行路難は山に非ず河に非ず 人生夫れ自身

である 一歩々々力強く歩め

27日(金)

夕①「群馬の夕」に興味深い有線放送

夕③良夜の如し 橋田東声

夕③頑丈で上品 金子信三郎

夕③竹林春幻楽 妹貞子に「詩」 高木鶴之助

夕③上毛歌壇の処女歌集 須藤泰一郎

夕③歌集「良夜」雑感 吉田緑泉

夕③お濠端の歌「短歌」 井田左内

夕③とりとめもなく 角田蒼穂

夕③阿部鳩雨氏と私 桂定次郎

夕③吾が好める歌 「良夜」を読み、雪解け

「短歌」 植村祐三

29日(火)

夕②大学や専門校の赤化征伐に期待される新

文相 学界某長老(談)

夕③自然の欲求を無視し従順を強いる勿れ

間違て居る現代のパ・マ・マ・子供は飽く

まで子供らしく 東京幼年園 西尾亀太

郎(談)

夕③日の暮れ頃「詩」 狩野とみぢ

夕③良き婦人を得る女子の体育 思春期の性

格は生涯を支配 極端な性情を矯る体育

30日(水)

- 夕①学者連起つ 治安維持法改正 緊急勅令に
国民思想指導上深憂に堪えぬとあつて
三十日会合意見を交換 新渡戸博士
(談)、添田博士(談)、志立鉄次郎(談)
夕②関西学事視察雑感(1) 正田虎四郎
(〜6月2日(4))
- 夕③婦人の性的犯罪とヒステリーの関係 嫉妬は既にその第一歩 五十嵐幸伍(談)
夕③ポルト小唄 菖蒲園にあたふ「歌謡」 柳芳太郎
- 夕③質問狂時代 子供の質問には親切に答へ
新奇な世界へ踏入らうとする子供の努力を妨げてはならぬ 堀内三次郎(話)
31日(木)
- 朝④政治家の進退 前警保局長 山岡万之助(談)
- 夕③国民として心得べき御大礼の参考図書 典礼、記録、図譜に関するもの 東京日比谷図書館撰定
昭和3年(1928) 6月
1日(金)
- 夕③享樂の悪夢から覚めて自己の貞操擁護へ
靈の存在を忘れた病的近代文明 女性は今累卵の危機に立つ 婦人共助会 石川やす子(談)
- 夕③アカシヤ林「詩」 狩野とみぢ
2日(土)
- 夕③櫻のいけ垣 市丸武二氏に「詩」 柳芳太郎
- 夕③初めて鏡を見た子供の話「童話」 比野りうほ
夕③健全なる身体は皮膚の強軟から寒心すべき青少年の結核死亡率 今からは非行したい鍛錬法 岡田道一(話)
3日(日)
- 朝③昔の恋を偲ぶラヂオ 機織唄放送に若き日を追憶し礼参りに機神様へ参詣
夕③阿部鳩雨と「良夜」 雑感 住合三郎
夕③墓場の中を歩む「詩」 山内恭三
夕③和歌のことなど(1) 村山徳栄
(〜6月10日(2))
- 夕③「良夜」記念歌会のこと 高橋平三郎
夕③プラスとマイナスの対話(1) 堤紅雀
(1のみ確認)
- 夕③田園情景「短歌」 横山良輔
夕③日曜会第二回歌会詠草「短歌」 城春山 荘、庭前小景を詠める 床の花瓶を詠める 吉田緑泉、松浦巖、松本文夫、中野照雄、早水城春
5日(火)
- 夕②南洋の旅(1) 馬場三郎 (〜6月30日(5))
夕③時雨「詩」 竹木愚木
夕③巷より家庭へ 道楽と間違れる 娯樂の真意義 道は遠きに非ず近きにある
夕③螢の子供「童話」(1) 薄木みどり
(〜6月9日(4))
- 夕③妖星陣「講談」(1) 淡路呼潮
(〜11月13日(10))
- 6日(水)
朝④御大礼準備 実行に這入つた京都御所を 拝観して
夕①張作霖を亡した「燕京の誘惑」 辛亥革命以来の北京は武人の憧憬であり魔の淵
夕③性的記事や恋愛ものは漸く飽かれて来た 歩一步と実質方面へ 雑誌を通じて観た 婦人の読書欲 東京堂書店雑誌部長 小峰富雄(談)
夕③泣いたとて「詩」 狩野とみぢ
7日(木)
- 夕③国の貧富の岐れ路は食糧問題の解決にあり 主婦の心掛け次第で種々の廃物が珍味に変わる 主婦食糧問題研究会 水田友子(談)
夕③より洗練されたい映画の鑑賞態度 映画鑑賞者へのお願ひ 松竹鎌田 野口鶴吉(談)
- 8日(金)
朝④土に立つ農村婦人 この娘を見よ *紫明
- 夕③美醜は問題の外 新時代の婦人は先づ健全であれ 妻として母としての第一要件はたゞ健全の一語あるのみ 内務省技師 内藤和行(談)
- 夕③家庭悲劇を救ふラヂオの使命 全国鉱石化実現と家庭婦人の受くるその恩沢 中央放送局関西支部編成係長 奥屋熊郎(談)

9日(土)

朝③上毛文徳碑銘成る

夕③婦人の職業独立は日暮れて道遠し矣 経

濟的観念の稀薄と感情的なのがその原因

10日(日)

夕③早苗田へ「俳句」 長谷川歌男

夕③郷土芸術への一考察 佐藤雪夫

夕③うかれめ「詩」 田中幸

夕③緑蔭雑感 杉田謙作

夕③暮鐘 島岡利二

夕③水兵の春「詩」 市村京之助

12日(火)

夕③児童の嘘を矯正するには 大人と同様に

扱ふは親の無理 児童智学協会 小泉蕃

(談)

夕③雨の明神「民謡」 平井芳郎

夕③星姫と作「童話」(1) 平野止夫

(6月20日(7))

13日(水)

朝④張作霖の片影(1) 報知新聞社長秘書 関

幸吉 (6月14日(2))

夕③処女にも似た純な地方を浮華化する都会

人 避暑の意義は健康にあつて虚栄や華

美の競技ではない 青年よ郷土をまもれ

夕③長唄の話 いきといなせの粋 上方の趣味

から江戸つ子好みに

14日(木)

朝③蘆花の小説に出る日銀新副総裁 深井英

五氏の事ども

夕③下女や下男を差別的に扱ふなどこ迄も

家族の一員として或る程度の自由を与へ

よ 使用人に対する主婦の心得 植村は

つ子(談)

夕③双生児は何うして出来るのでせう乎 産

んでも女の恥にはならぬ 併し妊婦に打

明けるのは考へ物 岩井光夫(談)

15日(金)

朝④中等学校以上の思想善導施設 学生監増

員 思想課新設 特に師範教育を重視

朝④剣に生きて剣に倒れた張作霖 華々しい

その生涯

夕③幼児の感情を尊重せよ 殊に細い所に注

意が大切 スコットホール日曜学校教師

田尻敢(談)

16日(土)

夕②汎太平洋会議で主張する女権 河口愛子

(談)

夕③これからが戦慄すべき病菌の世界 疫痢

赤痢は愛児を襲はんとする 難関に立つ

母親の注意 吉岡弥生(談)

夕③日が暮れる「詩」 狩野とみぢ

17日(日)

朝③上毛文徳碑の篆額と書丹

夕③夏十五句「俳句」 長谷川歌男

夕③七日会子持山吟行記 神保冷平、角田蒼

穂

夕③旅にありて「短歌」 米倉文二

夕③毛猿 村山十九枝

夕③初夏近詠「俳句」 古屋寛二

夕③旅断片 これを若きT校の人々へ捧げま

す 一、幽霊の話、二、蘆花の碑、三、榛

名富士登山、四、牛の出世 大沢真沙子

18日(月)

朝②上毛文徳碑 建設の質寄贈者

19日(火)

朝①江戸哀艶史 水道橋の血しぶき(1)「小説」

橋場鮎刺 (8月1日(37))

朝③謎の国支那 川口準太郎

夕②私の信仰と体験に就いて 前橋修養会に

て(1) 大倉邦彦(談) (6月25日(7))

夕③生花の真の生命は精神と情操の表現 婦

人に大切な生花は自然美に生かすにある

増田貞椿斎(話)

夕③短唱「詩」 笛木愁子

20日(水)

朝④砒石式受信機と本県(1) 東京放送局囑託

森寅一(談) (6月23日(4))

夕③予言科学から見た男女の結婚時期 人間

は余りに自然の時機を無視し過ぎる 高

島易断本部長 高島象山(談)

夕③寺の娘よ「詩」 柳芳太郎

21日(木)

夕③婦人雑誌の存在は果して女性の恥辱か

?を解く者は爾自身である 東京婦人日

曜学校校長 藤井謙作(談)

夕③銀のお部屋の姫様「童話」(1) 成田龍平

(6月29日(7))

22日(金)

朝②上毛文徳碑の除幕式 来月中旬に余儀なく延期す

朝④倫理歴史体育で国民精神作興 思想善導 に対する文部省の具体方針

夕③処女と否との鑑別 街頭を行く彼女のポーズに注意せよ 一日でわかる其特長 三隈丹次(談)

夕③性的の発達は婦人の方が早いそれを証明する出産能率の統計

23日(土)

朝③張作霖氏逝去公報に接し 胸中数万の兵甲を蔵する人とは思へぬ親しみさへ湧いた質素な小柄な人 満州曾遊当時の追想を 篠原本社長(談)

夕③吝嗇と節約の相違点 金に興味を持つなら 唯不慮の災厄の為に 三輪田元道(談)

24日(日)

夕③蝙蝠や「俳句」書 高橋香山

夕③台詞のカットに就て 藤島鶴三郎

夕③折々の歌「短歌」 松村草穂

夕③生活は苦しい 南小路莫

夕③野菊女流歌集「麦の花」を讀みて 樋口志保子

夕③星と薔薇と風景「詩」 青木寿雄

夕③ノスタルヂヤ「詩」 金井七四郎

夕③河原の葦「詩」 南雲義人

夕③鳶の葉つばに「詩」 狩野とみぢ

夕③日暮「詩」 橋本暮村

夕③歌人としての貞心尼 松浪

夕③良夜出版記念歌会詠草「短歌」(1) 須藤泰一郎、須田衛、勅使河原量太郎、角田蒼穂、金子規矩夫、大原弦月、木村亀道、飯田みさを、奥貫信盈、早水城春、新井香溪、宮城雀平、松村草穂、池田広二、藤岡林城、須永奈美知、浦上山夫、赤木馬彦、松井水枝、池田左善、土屋よしを、橋田東声、塚田きよ子、高柳哲

25日(月)
朝②「上毛文徳碑」の碑銘 叙事精詳措詞典雅の名篇 当代の碩学荒木博士が苦心推敲
朝③上毛文徳碑の彫刻進む
26日(火)
夕③児童の夏季休暇を如何したら有効に暮せる 児童を持つ家庭への注文 女子高等師範附属小学校主事 北沢種一(談)

27日(水)

朝②京都三条橋畔 高山彦九郎の銅像 建設工事いよく進行

夕③日本でも速かに婦選を解決せよ 之を拒む理由が分らぬ 母性完成の為に必要 高島米峰(談)

28日(木)

夕③人生即頭脳 幸福の第一歩は先づ記憶力から 男女共通の重大問題 共同婦人会 井伏たつ子(談)

夕③麦刈小唄 狩野とみぢに「歌謡」 柳芳太郎

28日(木)
朝③きのふ湿やかに故香雨先生の三週忌法会を営なむ 墓標の開眼式を兼ねて
夕③尊き女性
29日(金)
朝④外遊に付「妙な話」を讀みて 木檜三郎
夕③愛児に与へる絵本の選び方 日比谷図書館長 今沢慈海(談)

30日(土)
朝④大嘗祭供御穀に付て 高橋吉之助
夕③眞の礼儀は時や場所では変らないもの 止めて欲しい「旅の恥は掻捨て」 婦人と旅行道徳 井深琴江(談)
夕③朝だ「歌謡」 南雲義人
昭和3年(1928) 7月
1日(日)
夕②支那思想の特徴 川口準太郎
夕③児童のある家庭へ 夏休み中望ましいこと 過度の勉強を強ひるな 適当な摂生と 休養第一 岡田道一(談)
夕③婦人雑誌の改善に名流婦人が乗出す 地方団体とも連繫し雑誌経営者とも懇談
夕③おみよ坊「歌謡」 永田かつ美
夕③指介ものがたり「童話」(1) 臼井史郎 (7月5日(4))
2日(月)
朝②われに自由を与へよと女学生が同盟休校

して決議を学校当局に突付ける 私立甲府湯田高等女学校

朝③伊香保音頭の不評を一掃する為盆踊式の振付け宜しく新俚謡「伊香保節」生る

朝③木檜三四郎氏の為めに 清水留三郎 3日(火)

夕③子供のもつ愛情は伸びるだけ真直ぐに育め親が示す盲目的愛は絶対に慎まねばならぬ 司馬律太(談)

夕③窓に倚る「詩」 鈴木讓子

夕③湯壺より 芳太郎さま「歌謡」 市丸武二

4日(水)

夕③あの橋越えて「歌謡」 四ツ町法子

5日(木)

夕②農繁託児所雑感(1) 北甘楽郡小幡小学校

長 吉田信重 (7月7日③)

夕③前橋小唄「歌謡」 狩野とみち

6日(金)

朝④老子と其の環境 川口準太郎

夕①性改善聯盟会議 性問題の討議 連日十数

時間に亘る サンガー夫人も列席して

夕③灼熱の盛夏 能率の増進法 仕事を溜める

な 一日の仕事は一日に 暑中に於ける主

婦の心得 塚本はま子(談)

夕③茄子の畑よ「詩」 柳芳太郎

夕③猿になつた怠け者「童話」(1) 林静夫

(7月10日③)

7日(土)

朝③東洋の古精神 それに基調を置く日本画

の趣味を説く 小室翠雲画伯

夕③不良少年となる原因は何処にあるその芽生えの一例 何より大事なしつけ 東京少年審判所 保美保護司(談)

夕③西風「歌謡」 竹本近江 8日(日)

夕③天気祭り 須藤泰一郎

夕③磔茂左衛門遊行「短歌」 青山丈夫

夕③お国自慢 上毛の小唄に就いて 茂木近之助

夕③水郷スケッチ「詩」 大槻三好

夕③散步「詩」 金井七四郎

夕③益子徳三氏の第二民謡集「土」を推賞する やなぎ

夕③芸文座談会「告知」

10日(火)

朝③学生思想問題 小学校時代から国民的精

神の培養が会議で強調されたと 福田視学官(談)

夕①上毛一夕話(1) (7月16日⑦)

夕②男の国上州に咲いた、花、一輪 蒲田の新

進スター 菊川蘭子は本県の出身 京之助

夕③児童の宗教教育は自然の神秘から母親の信念生活が大切 反省の習慣性を養へ

東京女子大学母の会より

夕③子供さん 小学校の子供さん達に「歌謡」

狩野とみち

11日(水)

朝③待たるゝ上毛文徳碑の除幕式 いよいよ

本月二十九日に前橋市公園畔で執行さる

朝④悠紀地方の風俗画 近江八景其の他十数ヶ所の景勝地を都合よく配置して 川合玉堂画伯がすでに大体構図成る

夕③思想善導の根源は先づ教鞭の確立 現代の学問思想を理解した新教義を作れ 鷲尾順敬(談)

夕③宵の小雨「歌謡」 土屋与志緒

夕③権六爺さんの話「童話」(1) 山崎俊介

(7月14日④)

12日(木)

朝③「上毛文徳碑」搬入

夕③父母の子に対する愛情に変わりはない 自分の子と云ひ得るは母親のみと云はれても 三宅雄二郎(談)

夕③現代の若き女性に贈る二つの言葉 常に

適度の運動を採れ 幼児の教育に注意せよ 共立女子職業学校長 鳩山春子(談)

夕③夏の雨「歌謡」 鈴木讓子

13日(金)

夕③新時代の主婦は経済的教育に目覚めよ

女子実科女学校 木村武一(談)

夕③蛙の子供「詩」 橋本暮村

夕③婦人の身嗜みとは 身を飾る前に先づ

第一に心を飾れ 嘉悦孝子(談)

14日(土)

朝③上毛文徳碑いよいよ据付着手

夕③恐るべき傾向は若い女の米国化 女子の智識向上の為に男女共学制度を認めよ

高島米峰（談）

夕③潮来の町「歌謡」 永田かつ美

15日（日）

朝②荒木博士と文徳碑 昨日来橋親しく鑑賞

朝④思想善導策に茶話会と旅行 学生教授の

親密を図る文部省の碎けた新試み

夕③その夜のサイン 雨声会にて

夕③蕪吟十層「俳句」 泊瀬川歌男

夕③新らしき美・映画 佐藤雪夫

夕③高崎五日会例会句抄「俳句」 村上鬼城、

田島武夫、中曾根白史、荻原三嶺、吉川

思水、鈴木北零、中沢千鶴、小沢涸風

夕③法師温泉まで 杉田謙作

夕③燕「詩」 青木寿雄

夕③水論掣（狂言記）(1) 村山十九枝

（〜7月22日(2)）

夕③北窓亭雑記 森千魁

夕③女を背景にする 横堀真太郎に「詩」 清

水房之丞

夕③桂氏送別会（主催） 雨声会

16日（月）

朝③恋愛二重奏 ステージを去つて花嫁の生

活にはいり実生活の行進曲を続ける奈良

女史の恋愛挿話

17日（火）

夕③子供や若い人達の避暑は感心せぬ 何処

でも自由に愉快に理解ある監督が欲し

い 堀七蔵（談）

夕③上野の日暮 さる男の唄ひし「歌謡」 芳

郎

夕③人魚の唄「童話」(1) 関谷いわを

（〜7月25日(7)）

夕④曉鐘は響く「小説」(1) 鈴木悠一郎

（〜翌年3月3日(2)）

18日（水）

朝④お産は美の交響楽 無稽の伝説に迷はさ

れるな 野村隆一（談）

朝④山の崇厳美 燕、白馬、八ヶ岳 丸山晚霞

（談）

朝④他国の工女さん「民謡」 大手昇

19日（木）

朝④小学教育に於る思想善導問題 山崎文部

政務次官（談）

朝④銷夏閑談 孤島ロマンス 漂流異聞 今俊

寛さながらの男女三人に絡む話(1)

（〜7月21日(3)）

夕③婦人の手で始めて家庭経済組合設立 生

産力の拡大が目的で

夕③女子参政権運動に就いて 東洋女学校長

岸辺福雄（談）

夕③宵の雨「歌謡」 狩野とみぢ

20日（金）

夕③落し文「歌謡」 永田かつ美

21日（土）

朝③題上毛文徳碑「漢詩」 平田楓山

夕②川柳選釈 涼み台(1) 菁花

（〜9月2日(3)まで確認）

夕③母性としてのビクトリヤ女王 悪評を重

ねた太子が後に天晴明君となる 三宅雄

次郎（談）

22日（日）

朝④革命児老子 川口準太郎

夕③箱根に遊ぶ「短歌」 須田衛

夕③非文芸的な評論 竹内越村

夕③湯檜曾にて「詩」 高橋誠

夕③心辺雑記 主として清水房之丞に 横堀

真太郎

夕③七夕歌会詠草「短歌」 浦上山夫、住谷三

郎、神沢金夫、須藤泰一郎、池田広二、

辰己赤夫、土屋与志雄、角田蒼穂

夕③よしの葉かげ「短歌」 米倉文二

夕③良夜記念短歌会詠草「短歌」(2) 中曾根

白史、田島武夫、小沢涸風、小野里照親、

神保冷平、天田孤雀、須永靈鳥、真庭武、

阿部鳩雨、住谷三郎、高橋平三郎、須藤

隆三、永井淳、加藤啄郎、加藤岸蔵、植

村祐三、大沢雅休、原登喜夫、神沢金夫、

岩崎やすしげ、横山良輔

24日（火）

朝③上毛文徳碑除幕式は青葉の前橋公園東照

湖畔に県内外の名士三百余名を迎へ廿九

日 壯嚴に挙行

夕③現代婦人の叫ぶ男性への要求 等閑視さ

れてゐる理解と誠意 女子青年会 行田

満世子

夕③無暗な避暑や転地は弊害を伴ひ易い 精

神療法には最も良い 菱刈実雄（談）

25日(水)

朝③大隈侯随遊記 関幸吉

夕③世間から呪はれる私生児は年々減少果

して風紀の浄化に依るか見かたでは悪
化とも云へる 内閣統計局囑託 竹内秀
次郎(談)

次郎(談)

夕③廃れ行く華道が婦徳の發揮に必要 熟達
すれは如何なる事変にも安静を保つ 貞
椿齋 増田浪五郎(談)

椿齋 増田浪五郎(談)

26日(木)

夕③日本婦人はまだく国際場裡に立てない
毎年の国際聯盟総会には僅かに唯三人
の政府代表

の政府代表

夕③児童の読物として良いもの悪いものい
ろく条件があります 特に母親の注意
が肝要です

が肝要です

夕③玉を取損ねたこと蟹の話「童話」河
原築之助

河原築之助

朝③野口雨情氏民情視察 民謡作製の為

朝④不老長生と老子 川口準太郎

夕③炎える暑さ「詩」土屋与志緒

夕③偉くなった日の出松「童話」(1) 金子光
晴 (7月31日(3))

28日(土)

朝④赤城登山案内 あの山恋し海こひし 著書
中の老教師から夕③開拓の余地ある日本婦人の職業 諸外国
と比較して 要は教育の改善

夕③小女島 笹塚にて「歌謡」石山巳之吉

夕③童話集「黒いピアノ」を推賞します 一
記者

29日(日)

朝①上毛文徳碑除幕式

夕③随想一束 降旗足穂

夕③山に籠る 夏日、夕暮「詩」 菊園優

夕③太田金山「民謡」 松山三吉

夕③円き合掌 三谷川篤

夕③快想地を行く(1) 岸勝三 (1のみ確認)

夕③色硝子「詩」 大伴茂樹

夕③高橋誠氏に御尋ねやう 立見米市

夕③高橋氏の近業 群馬の史蹟名勝一卷 江湖
愛読期待

30日(月)

朝③上毛文徳碑除幕式きのふ盛況裡に行ふ

31日(火)

夕③閑却されすぎる主婦の健康と修養 良人
はもつとく妻の職務を理解せよ 小川
隆四郎(談)

隆四郎(談)

夕③我が母の教育は硬教育であつたが一面に
優しい子供の慰安者であつた 海軍大将
鈴木貫太郎(談)

鈴木貫太郎(談)

昭和3年(1928) 8月

1日(水)

夕③婦人雑誌の使命は社会の教化にある 俗
悪なのが余りに多い 売れる許りが能で
ない 守屋東(談)

夕③花火「歌謡」 南雲義人

夕③性道徳頽廢時代 不合理な家族制度と外
来思想の鵜呑から 道の会 菊田順世
(談)夕③梨の花と蜜蜂「童話」(1) 木村てるよ
(8月4日(4))

2日(木)

朝④しら露親分「講談」(1) 松田竹の島人
(翌年6月15日(2))

2日(木)

朝④利根の流れと共に永遠に記念さる可き文
徳碑 香雨先生の為に快心事 森川抱次
雨翁、擬示篠原秀吉君、文徳碑「漢詩」
東山道人(東京高師教授 中島信虎)夕②前橋雑吟 前橋公園、渡利根川、憶篠原香
雨翁、擬示篠原秀吉君、文徳碑「漢詩」
東山道人(東京高師教授 中島信虎)夕③夏の服飾の受難 薄物に対する考察 薄物
を着ても肉感的に見える時代が来る

夕③糸の街「詩」 西川東

夕③糸の街「詩」 西川東

夕③糸の街「詩」 西川東

夕③糸の街「詩」 西川東

夕③糸の街「詩」 西川東

夕③糸の街「詩」 西川東

夕③糸の街「詩」 西川東

夕③糸の街「詩」 西川東

朝④支那人の外交手腕 川口準太郎

朝④病床雑感(1) 森川抱次 (8月5日(2))

夕③不景気をかこつ前に先づ経済観念の把持
に努められたい 生活難に処しての主婦
の心掛(1) 家庭経済会 上森登茂子(談)夕③愛児の夏休みを無為に過ごさせるな 来
るべき第二学期の準備のために 共愛学
園 藤田金次郎(談)夕③愛児の夏休みを無為に過ごさせるな 来
るべき第二学期の準備のために 共愛学
園 藤田金次郎(談)夕③愛児の夏休みを無為に過ごさせるな 来
るべき第二学期の準備のために 共愛学
園 藤田金次郎(談)夕③愛児の夏休みを無為に過ごさせるな 来
るべき第二学期の準備のために 共愛学
園 藤田金次郎(談)夕③愛児の夏休みを無為に過ごさせるな 来
るべき第二学期の準備のために 共愛学
園 藤田金次郎(談)

5日(日)

朝④女性は悲し 今もなほ弱し 離婚相談に現

れる女性の嘆き

夕②文徳碑礼讃 亦川荘主人

夕③雑詠「短歌」 浦上山夫

夕③七月の秋風 伊藤信吉

夕③拾遺集「短歌」 辰己赤夫

夕③横槍を入れる 立見米市君に 菊園優

夕③立見米市君に与ふ 米倉文二

夕③草刈り小唄「民謡」 小野吉郎

夕③七夕集「短歌」 木馬 田中幸／はるな

つ 青木由平氏に 佐藤しげを／近詠

松浪／そむく心 後藤福太郎／背子 幸

村破留子／野の花 邦冬子

7日(火)

夕②恭祝文徳碑「俳句」 町田樵石

夕③婦人の参政権は何故に必要か 三つの権

利を獲得するのが婦選の目的

夕③七夕「歌謡」 狩野とみぢ

夕③猿智恵に騙された犬「童話」 笹川蟹彦

8日(水)

朝④柳風狂句合せ 前橋美香登連「川柳」 大

勝、又一坊、啓隆、若葉、雨ン坊、だよ

り、阿呆、松志、和占、喜光、直女、秀

丸、松波、健児、梅丸、六三四、桂舟、一

一友、光風、才ぞう、小雨、染丸、一步

夕③盆踊余情「歌謡」 柳芳太郎

夕③七色のあはび「童話」(1) 笹川蟹彦

9日(木) (8月9日(2))

朝④柳風狂句合せ 前橋美香登連「川柳」 光

風、健児、梅丸、又一坊、啓隆、六三四、

小雨、だより、阿呆、一二九、一步、梅

友、若葉、賀津子、秀丸、桂舟、一友、

松波

夕③子「短歌」 柳原燐子

10日(金)

夕③いともデリケートな子供の心を知れこ

れを知らぬ教育は一切失敗 夏休みの子

供教育秘訣 日出野百合(談)

夕③田圃小唄「民謡」 小野吉郎

夕③温泉に就いて新発見の作用と飲用と入

浴と「湯の花」 藤浪剛一

夕③涙と笑ひの無い村「童話」(1) はたきよ

11日(土)

夕③愈々深刻になつた若い女性の就職難 地

方から上京する者を何とかして防止し度

い

夕③結婚を目標とし正しき恋愛に生きよ 最

後のものは云はでものこと 精神的にも

純潔であれ(1) 女子青年会 金子宗子

(8月14日(2))

12日(日)

夕③雑詠十句「俳句」 古屋寛二

夕③悪の花 島岡利二

夕③鬼城庵再建「短歌」 中曾根白史

夕③草臥れた 温井藤衛

夕③菖蒲沼「短歌」 江原亮

夕③ふる里の唄「歌謡」 土屋与志緒

夕③空想的盲断を排す 竹内君の「非文芸的

な評論」に就いて(1) 黒井邦娥

(8月19日(2))

夕③児童劇演出覚書 藤島鶴三郎

夕③無題 或る友に与へる「詩」 円明閑馬

14日(火)

夕③晩婚の風潮に対し早婚を唱へる 英人小

説家ヴィー氏が女性には可哀そうだと嘆く

夕③闇夜「歌謡」 南雲義人

15日(水)

夕③家庭の不和は婦人の我儘から 夫を理解

する事と犠牲的精神が必要 大妻コタカ

(談)

夕③盆の踊り「歌謡」 狩野とみぢ

夕③都会に憧れる若い女は誘拐され易い

16日(木)

朝④廃娼した人々に婦人の同情が欲しい 守

屋東(談)

朝④山路「歌謡」 深井繁

朝④旅あきんどと黄金の箸「童話」 比野り

うほ

17日(金)

夕③巧妙になつた不良少年の手段 脅迫的に

出るもの弱味に乗ずるもの 東京少年審

判所 保美保護司(談)

夕③盆景は創作的で家族を同化融合 杉政流

盆景のお話 横田湘琴(談)

夕③神の怒り「童話」(1) 詩賊野梧郎

(8月25日(7))

- 18日(土)
 夕③街頭の彼女等と家庭の彼女等に(1) 東京
 援産場 荒木豊子(談) (〜8月21日(2))
 夕③新学期を迎へるに際し家庭に於ける児童
 への注意(1) (〜8月21日(2))
 19日(日)
 夕③新秋戯「画」 関口高二郎
 夕③惜別 島根県特高課長に栄転の桂定次郎
 氏に「短歌」 阿部鳩雨
 夕③八月の書 伊藤信吉
 夕③雑近詠「俳句」 鈴木如友
 夕③高崎五日会例会句抄「俳句」 村上鬼城、
 田島武夫、中曾根白史、荻原三嶺、鈴木
 北零、中沢千鶴、小沢湄風
 夕③前橋の秋 原静枝
 夕③夜ひらく、華「詩」 降旗足穂
 夕③これまた悪魔である! 「詩」 深沼弘胤
 夕③夏の思ひ出 江原、豊田両兄に「短歌」
 茂木近之助
 20日(月)
 朝③侠雄大前田栄五郎世に埋もれてみた其
 事跡 内務部長一行視察の日に偶然発見
 された全国の親分の手紙(1)
 (〜8月28日(10))
 21日(火)
 夕③山の男「歌謡」 小野吉郎
 22日(水)
 夕③母性愛を通して神の愛を感じず 母の愛の
 みは永久不変 日本女子大学教諭 吉江
- 富恵(談)
 23日(木)
 夕③急に増えて来た女学校出のお女中 成績
 は非常に良し 是も時代的現象か
 夕③地上の星と輝く永遠の美は如何にして求
 める 愉快なれ平和であれ
 24日(金)
 夕③婦選獲得運動に猛進する八団体 無産婦
 人団体も加つて婦選を前に猛運動か
 25日(土)
 夕③子供の世界 読みものや絵に就て 新井
 五郎(談)
 夕③新思想家の軽卒な宗教無用論 寧ろ弊害
 を除去して真実の宗教をつかめ 鷲尾順
 敬(談)
 26日(日)
 夕③秋風余談 村上鮎魚氏遺稿整理 吉田緑
 泉、田島武夫
 夕③哀歌 伊藤信吉氏におくり記念す「詩」
 降旗足穂
 夕③山の湯宿 杉田謙作
 夕③湘南雑記(1) 東利根夫 (〜9月2日(2))
 夕③夏より秋へ 茂木、江原両兄に次す「短
 歌」 豊田宗作
 夕③天幕漫吟 奥利根より下野に出づ「短歌」
 神沢金夫
 夕③相聞 RN女史に捧ぐ「短歌」 米倉文二
 夕③近況にかへて「短歌」 渡辺はる子
 夕③雑詠「短歌」 角田節子
- 28日(火)
 夕③生産業に現れた我が国女性の力 全体の
 三分の一を生産 四十億九千余万円に上
 る
 夕③裏町の船「童話」(1) 垂水青街
 (〜9月4日(7))
 29日(水)
 朝③郷土読本 愈々編纂に着手 来る二日前橋
 高女で整理委員の協議会
 夕③家事の余力を以て社会の爲めに働け家
 庭を外に飛び廻る 婦人社会運動の程度
 大妻コタカ(談)
 31日(金)
 夕③軍人の家庭に不良少年が多い 逐年激増
 するこの傾向に国家として対策を講ぜよ
 少年指導会主事 渡辺求(談)
 夕③酒の害が及ぼす精神の发育障害 米国で
 は禁酒緩和 日本では酒なし日
 昭和3年(1928) 9月
 1日(土)
 夕③坐つた時に表れる日本婦人の美体の重
 心はお尻に置く 何と趣き深い其姿態よ
 夕③表情はあくまでも自然の儘であれ
 夕③福守様よ「歌謡」 柳芳太郎
 2日(日)
 朝④露国の文豪グーリキイ氏重態 盲腸炎で
 病勢悪化する
 夕③児童映画の問題 佐藤雪夫
 夕③失はれた市街、公園詩想「詩」 上田えい

じ

夕③藪添ひの家「短歌」 中曽根白史

夕③村上鬼城翁を迎へて 勅使河原洒落

夕③歌集「流れ雲」を読む 島岡利二

夕③上州のおもひで 伊香保、榛名みち、妙義

山「民謡」 佐々木緑亭

夕③流れ星「民謡」 針谷章三

夕③伊香保の唄 市丸武二兄に贈る「民謡」

土屋与志緒

夕③陽を恋ふ「民謡」 大槻三好

夕③秋が来たよと「民謡」 狩野とみぢ

夕③立つ秋「民謡」 小野吉郎

夕③秋草色合戦「民謡」 柳芳太郎

4日(火)

夕③母性愛の尊さと女性の生きる道 日本女子

子大学教授 吉江富恵(談)

夕③燈火親しむべき秋 婦人方に勧めたい読

書 大切な読み物の選択に就いて(1) 日

本図書倶楽部 榊原伸一(談)

(9月5日(2))

5日(水)

朝④満鮮の旅(1) 金井

9月7日(12)まで確認

夕③不良少年善導には先づ原因を考へよ子

供の誤りか父兄の落度か

夕③三吉とうどん「童話」(1) 十菱愛彦

(9月13日(7))

6日(木)

夕③家庭問題の解決 共に陥ちよ而して共に

浮かべ 徒らにかこつな！徒らに嘆く
な！五年前の意気と努力とを想ひ起せ(1)

婦人ホーム 松永末美(談)

(9月7日(2))

7日(金)

夕③馬追さん「歌謡」 狩野とみぢ

8日(土)

夕③小学校の画科にテープ絵を薦む のんび

りした気持を充分に味はされる 東京高

師教授 板倉賛次(談)

夕③秋の句集「俳句」 芭蕉、蕪村、子規

夕③母と子と神と社会(1) 日本女子大学校長

麻生正蔵(談) (9月11日(2))

9日(日)

朝②大衆作家三上於菟吉氏の留守宅を訪問

金銭強要ピストルを発射逃走

夕③秋風雑記 A、B、C無、D、Eラツパ

ズボン、F円本、G金魚、I芸者 南小

路薫

夕③水兵「詩」 市村京之介

夕③口語歌に対する断草 清水房之丞

夕③遊妓楼小曲の篇、あき、はかない女「詩」

堀川はくあ

夕③秋宵片々 井上碧村

夕③夜ひらく フリハタタルホ

夕③河畔写生「短歌」 田島武夫

夕③ふるさとの山「短歌」 塚越麗一

夕③越後拾遺「短歌」 村山十九枝

夕③鬼城翁歓迎句会「俳句」 植村祐三(記)

／残暑 鬼城、婉外、刀水、洒落、柳風、
卯舟、歌庭、白蛾、寒水、祐三、半治、

耕人／萩 刀水、白蛾、楽山、柳風、洒

落、歌庭、祐三、鬼城／鬼城翁選 白蛾、

洒落、刀水、婉外、失名／特選句 白蛾、

祐三、婉外、卯舟、刀水

10日(月)

朝③日本婦人の典型的御風格を備へ給ふ松平

節子姫生立の記(1) (9月15日(6))

11日(火)

夕③時代に逆行する迷信の害毒 愚民を惑は

すの言を斥け速かに其弊害を一掃せよ

豊島師範学校 島豊吉(談)

12日(木)

夕③夏の世界で子供は何を得たか 林間学校

で得た身心両面の効果

13日(木)

夕③芸術としての書(1) 書道師範 塚本芝香

(談) (9月14日(2))

14日(金)

朝④一九二八年の記録 汎太平洋婦人会議 第

一回のスタートは実に鮮かに切られた

桜楓会選出代表 大多和竹子(談)

夕③秋「短歌」 橋田東声

夕③自転車と二人「童話」(1) 垂水青街

15日(土) (9月22日(7))

夕③自由結婚の多くは何故破綻する 自由と
放恣とを混同せずにお互に責任観念を忘

- れるな(1) 婦人向上会結婚相談所 近藤とら子(談) (9月18日(2))
- 夕③秋の花「俳句」 芭蕉、素堂、其角、荷風
- 夕③音楽漫筆(1) 永井郁子 (9月18日(2))
- 16日(日)
- 夕③近時雑感 赤木原哲
- 夕③さよならイリザよ「詩」 ロバート、バアンス 清水房之丞訳
- 夕③除隊走筆 小野忠孝
- 夕③秋風「詩」 住谷哲美
- 夕③感想三つ 力強き風景、朝顔の花、緑陰
- 新井悦三
- 夕③雑詠二三「短歌」 高橋平三郎
- 夕③峯山名画観展手記(1) 飯島勇 (9月23日(2))
- 夕③赤城歌会詠草「短歌」 鈴木葦舟、藤田林城、大沢雅休、赤城馬彦、青柳花明、内田嘉城、大原弦月、市川たかし、阿左見さわ子、河原鶴義、阿久沢せん、浦上山夫、新井恒雄、田村かつ、内田ふじの、鈴木かなめ、松井岩居、須永靈鳥、石橋藤三郎、松村朝子
- 19日(水)
- 夕③生活様式をもつと簡易にせよ 複雑な様式は生活難の因(1) 日之出女子学院 東海林潔 (9月20日(2))
- 20日(木)
- 夕③健全は美への唯一のちかみち 人形的美は世紀おくれ(1) 日本体育協会 池内健
- 行(談) (9月21日(2))
- 21日(金)
- 夕③婦人も精神的の何物かを創造せよ 鷺尾順敬(談)
- 22日(土)
- 朝④人生行路の憩ひの水 夫れで靈魂は潤ふ 社会とゴムの弾力性 児童芸術協会 中沢時彦(談)
- 朝④余りにまゝご的な現今の主婦に与ふる 上手に家政を執るには(1) 家事研究会 吉田千代子(談) (9月25日(2))
- 23日(日)
- 朝③上州小唄近く出来る
- 夕①いよゝゝ詠進された悠紀主基風俗歌
- 夕③天才嬢青木政子の墓を訪ふ 須藤泰一郎
- 夕③秩父のつばめ「民謡」 木部富平
- 夕③「詩泉」創刊に就て 塩野筍三
- 夕③不徹底と言ふこと 温井東衛
- 夕③ふくもり音頭「民謡」 天野純
- 夕③伊香保より、伊香保の賑ひ「民謡」 市丸武二
- 25日(火)
- 朝③星野斗北氏小祥忌
- 夕③こびとの話「童話」(1) 十菱愛彦 (10月6日(10))
- 26日(水)
- 夕③想像以上に大きい映画の影響 児童には有益な映画を学校で見せ度い 堀七蔵(談)
- 夕③子供の絵本を買ふ際の御注意
- 27日(木)
- 朝④都会にあこがれる青年男女に望ましい二つのこと(1) 高島米峰(談) (9月28日(2))
- 28日(金)
- 朝①奉祝秩父宮様御慶事
- 夕③母の再教育の意義(1) 日本女子大学教授 大橋広子(談) (10月2日(3))
- 29日(土)
- 夕③美人の要素は健康と爽快の精神 肉体美も要するに潑瀾たる健康から
- 30日(日)
- 夕③私の一言(1) 中村節也 (1)のみ確認
- 夕③風(一幕)「戯曲」(1) 杉田謙作 (10月7日(2))
- 夕③乱れた詩壇 岡部宇一郎
- 夕③秋雨のスタヂオ 佐藤雪夫
- 夕③兵隊詩篇 1花、2黎明風景、3濠水「詩」 小野忠孝
- 夕③節穴其他 節穴、足跡、桐、道、土鼠、矛盾、自己厭悪 大沢真沙子
- 夕③旅にして「短歌」 米倉文二
- 昭和3年(1928) 10月 1日(月)
- 朝③上毛今昔物語(2) 上毛の文運に貢献楯取、神山、大森の良二千石 上毛の歌曲に關するエピソード 松村琴莊(談)
- 2日(火)

- 朝③上毛今昔物語② 師匠美佐吉が植付けた
眉橋花柳界に於ける歌沢節今は筋の正
しいのが甚だ少ない 松村琴荘(談)
- 朝④国際競技の成績は体力か意気か既にそ
の素質を持つ 内藤和行(談)
- 3日(水)
朝④完備してゐる露西亞の社会事業 託児所
等何れも国営 ロシアからの嬉しい便り
- 朝④時代と共に変わる美人の標準 人形的な美
に替るに健康で明るい近代美
- 4日(木)
夕③愚かなるたましひの持ち腐り 凡てが横
倣一点張りの近代的女性に与ふる言①
女子高等師範学校 阪谷米子(談)
- 夕③良人の仕事に理解を持つて欲しい 「母」
の会 足立淡川(談) (〜10月5日②)
- 5日(金)
夕①秋を知る① 秋は、もの悉くが句になる
年齢と季節で異なる文芸物の好み 長谷
川歌男(談)
- 夕③可愛い子には薄着をさせよ 風邪に罹り
易いのは厚着の為 村瀬達夫(談)
- 6日(土)
夕③フランスの主婦のよき家政ぶり 無清算
すぎる我が国の家庭① 婦人消費組合 秋
山浪子(談) (〜10月9日②)
- 7日(日)
夕③「風」其他 藤島鶴三郎
- 夕③病院生活「短歌」 青山丈夫
夕③虹「短歌」 松浪
- 夕③霞拳赤城山 落水、鳴子、秋風「俳句」
植村婉外、阿久津白蛾、真庭歌庭、角
田耕人、勅使河原洒落、栗原一竿子、横
山薬水、植村祐三、天野寛哉、弘胤
- 9日(火)
夕①秋を知る④、心を引く穂すゝきのうす死
何ともいへぬなつかしさ 須藤泰一郎
(談)
- 夕③婦人職業として産婆はどんなものか手
取早くはないが安全な職業 林秀子
(談)
- 夕③遠い都へ「童話」① 村井武生
(〜10月16日⑦)
- 10日(水)
夕③一家平和が子供の栄養を良くします 食
事中に叱つては子供は消化不良になりま
す 笹田嘉雄(談)
- 11日(木)
夕③若き女性の苦悩は何う解決すべきか自
己に徹せよ、唯この一語のみ① 婦人
ホーム 吉永末子(談) (〜10月12日②)
- 13日(土)
朝③お茶の会の主人側と客の心得 社交生活
を楽しみ悦ぶ態度が欲しい
- 朝③常に強く正しい意志をもて① 女子青年
会 行田とし子(談) (〜10月14日②)
- 14日(日)
夕①塚本茂氏五回入選 帝展洋画部へ
夕③智能の優れてゐる日本児童の素質 先進
文明国の児童に比して決して劣らぬ 松
本亦太郎(談)
- 15日(月)
朝②独学で帝展へ入選した福島信君
- 16日(火)
夕③羨しいハワイの職業婦人の収入 平均週
給三十四五ドル 毎月多分の余剰が出る
- 夕③文芸は娯楽に非ず 人格錬磨の素とし生
活経験の資となせ 茅野蕭々(談)
- 夕③一度の晴衣「民謡」 小野吉郎
- 17日(水)
朝⑤岡部栄信氏に紺綬褒章の伝達式 きのふ
県庁正庁に於て
- 朝⑤伝達式終りて 岡部栄信
- 夕③職業婦人に就いて悲しむべき流行的現象
誤られた最初の第一歩 今は一つの準備
時代① 婦人文化協会 山川貞子(談)
(〜10月19日②)
- 夕③港「童話」① 垂水青街
(〜10月26日⑦)
- 19日(金)
朝③けふ館林で映画『神の姿』試写 原作者岩
藤思雪氏も来て自から説明を試みる 教
育映画の相異の点推奨すべき点
- 夕③新時代を画す手芸創造の為に創作的態度
と芸術的美観を現す事が必要
- 20日(土)

夕①秋を知る(10) 無営夢亦消 この浄境に茲し

ばらくは戻つてゐられますと 高橋香山
(談)

夕②雑誌報国の講談社万能時代

夕③女性文化の建設(1) 鷲尾順敬(談)

(〜10月24日③)

21日(日)

夕③秋の利根温泉 島岡利二

夕③十月の歓祭「詩」 三谷川篤

夕③頭痛の種 狗、家庭、悪、人間の正体 南

小路薫

夕③晩秋「短歌」 米倉文二

夕③「親子雀の唄」を読む 益子徳三

夕③「児童の夕べ」私感 藤島鶴三郎

24日(木)

朝③自然の美と造化の妙 価値高き「人類の

進化」文部省社会教育課が試見

夕②国立癩病療養所を草津温泉に設置

夕②映画「神の姿」伊勢崎の試写会 椎名龍

徳氏も出席して

25日(木)

朝②上毛美術譚(1)

夕③神経質な愛児の育て方(1) 大草みよ子

(談)

27日(土)

夕③皇室の御慶事と禁酒問題に就いて(1) 二

荒芳徳(談)

夕③小人の御馳走「童話」(1) 詩賦野梧郎

(〜11月3日⑦)

30日(火)

夕③婦人の自覚で食糧問題も解決 日本婦人
の頭は非科学的で頗る不経済的 佐伯博
士(談)

31日(水)

夕③勇壮であつた日本上古の女性 男尊女卑
の語は後世に出来た言葉

昭和3年(1928) 11月

1日(木)

朝④帝国農会より 岡部栄信

2日(金)

夕③衛生上から見た和洋人の観念 西洋人は
理智的で日本人は気分次第

3日(土)

夕③昔も今も変らぬ婦人の嫉妬心

6日(火)

夕③大に注意すべき児童の悪癖矯正(1) 杉田

直樹

夕③とかげのしつば「童話」(1) 小川龍彦

(〜11月7日②)

7日(水)

朝③天皇陛下の御聖徳(1) (〜11月16日⑦)

夕③育児の心得 常に体重の殖える赤ん坊は

健康

8日(木)

夕③御大典に際して家庭の楽園化を望んで止

みません 相互の理解と謙讓の上に築け

(1) 双葉婦人会 池野郁代(談)

(〜11月9日②)

夕③皇后陛下の御坤徳(1)

(〜11月9日②)まで確認
夕③めつちから自動車「童話」(1) 香川春夫

10日(土)

朝②社会事業功労家として岡部栄信氏文部大
臣より旌表さる けふ御大典に

朝②恭奉賀登極大典表 篠原秀吉

13日(火)

夕③大きな記念事業より各自家庭での奉祝と
して最も有意義なる精神修養(2) 三輪田

元道(談)

夕③日本児童の肉体的素質に就いて(1) 松本
亦太郎氏(談)

14日(水)

夕③御盛儀を期して我が国固有の婦徳美を
發揮せよ 並びに誤られたる消極的態度

の改善(1) 山脇房子(談)

(〜11月16日②)

夕③切支丹剣戟情話 妖魔の叫び「講談」(1)

菊池暁汀

(〜翌年5月3日⑮)

16日(金)

夕③真の社交とは義理と外観の衣を脱ぎ
たゞ一意誠実であれ(1) 育風会 水木淳

子(談)

(〜11月20日②)

18日(日)

夕③草野心平と其詩集 横地正次郎

夕③兵隊詩篇 花ふるふからす川低唱「詩」

小野忠孝

- 夕③秋愁雜記 失恋、清貧、結婚、病氣 岡部 宇一郎
- 夕③コスモス「詩」 大槻三好
- 夕③ある散歩者(1) 村山十九枝 (〜12月2日③)
- 夕③断崖「詩」 柚木厚太郎
- 夕③奥利根根り「短歌」 茂木信太郎
- 夕③三国峠、水が清けりや「民謡」 青木甲子郎
- 夕③赤城の唄「民謡」 古屋三郎
- 夕③三日月さん「歌謡」 狩野とみち
- 夕③十九娘「歌謡」 小野吉郎
- 20日(火)
- 朝②野口雨情さんの上州民謡の発表を待ち切れずお店の番頭が自作発表
- 夕③真の文化の建設は国民の叡智に依る 徒らなる感激と模倣は国を危くす 鷺尾順敬(談)
- 21日(水)
- 朝⑦大阪より 篠原蕭々子
- 夕③昭和維新に於ける我等日本人の使命 教化と国交につとめ給ふ聖旨を奉体せよ 加藤咄堂(談)
- 夕③子供の喧嘩とならびにこれに對しての保護者のよき態度を語る(1) 「こどもの導き」 主事 藤原隆三郎(談) (〜11月22日②)
- 夕③十月下旬の文芸歴史 22日(木)
- 朝③大阪より 日本新聞協会大会に参列して 篠原蕭々子
- 夕③結婚前の職業生活は主婦としての第一歩 虚栄のためならやらぬがまし 結婚生活へのよき過程とせよ(1) 婦人修養会 池部とき子 (〜11月23日②)
- 夕③デユボン爺さん「童話」(1) 垂水青街 (〜12月1日⑧)
- 23日(金)
- 朝③大阪より 高御座と御張台を奉拝して懼然として襟を正す 篠原蕭々子
- 朝④文部省の奨励 郷土図書館設置 24日(土)
- 朝③大阪より 大阪城の遺址を訪ねて 篠原蕭々子
- 夕③不景気知らずに予算主義第一 不経済的 観念の救助策 加納貞江(談)
- 25日(日)
- 朝④上級学校に進めぬ貧困の児童と対策文 部省調査に依り救済方法を講究する
- 夕③昭和帝御即位礼 御大礼「俳句」書 高橋香山
- 夕③謹詠「短歌」 吉田緑泉
- 夕③ある日・ふと 僕はこんなことを考へた (1) 新井哲夫 (〜12月9日②)
- 夕③詩集愛読「詩」 丘辺草一
- 夕③利根川雑感 城郊二
- 夕③雨の日・晴れた日「短歌」 中曾根白史
- 夕③蚕くさとして「短歌」 後藤福太郎
- 夕③短歌十首「短歌」 神倉長次郎
- 夕③榛名登山「短歌」 茂木たけを
- 27日(火)
- 夕②童謡のおぢさん葛原しげる氏 敷島校の校歌を作る 作曲は本県出身の作曲家井上武士氏のお骨折
- 夕③婦人に必要なのは座談上手の事 話題を豊富にするには読書をする事
- 夕③大礼が古式に做ふは明治大帝の御深慮 関根正直氏(談)
- 28日(水)
- 朝③出来た上州小唄 発表は来春に 作者雨情氏が来県し県当局と種々打合せ
- 夕①御大礼奉祝勅題「菊盛」詠進二万首を突破す
- 夕③最も注意すべき求職者の心得 如何すれば目的を達する事が出来るか 東京市社会局 財部叶(談)
- 夕③史実に現れた春日局辞世の歌 傑女の半面を現す悲哀の情緒
- 夕③伊太利婦人の典型ムツソリーニ夫人 燦然たる夫君の名声の裏に見る主婦振り
- 29日(木)
- 夕③愛児のしつけ方に不徹底は禁物 褒めるのも叱るのも家族一緒に(1) 友愛学院 藤井五郎太(談) (〜11月30日②)
- 30日(金)
- 夕③動物園の話 珍しい面白いお話の数数(1) 上野動物園長 黒川義太郎(談)

夕③俳聖の冬「俳句」 芭蕉、蕪村、一茶、鬼貫、宗因

昭和3年(1928) 12月

1日(土)

朝③民謡ばかりの小学校歌を作る 佐波郡剛志校のために時雨音羽氏の作歌

朝③上毛美術展覧会はいよ／＼今日から開く

夕③子供は風の子 ひなたで遊べ 注意一つで風邪などひかぬ 田尻敢(談)

夕③思ひ出は懐かし 子守人形の話 夢誘ふ子守唄地方色も色豊に

2日(日)

夕③碧空 島岡利二

夕③貰の煙り「詩」 松村文一郎

夕③遠い後影に贈る 純情を棄てる(映画スナツプ熱砂の舞) 「詩」 森千魁

夕③秋雨「詩」 梅津泰助

夕③朝「詩」 温井東衛

夕③麦蒔き唄「民謡」 狩野とみぢ

3日(月)

朝②きのふもまた恵まれた 展覧会日和に押しかけた参観者実に一万人を突破 上毛美術展賑ふ

美術展賑ふ

4日(火)

朝③上毛美術展第三日 朝の内は雨に禍され たが午後からは一層いやます参観者 審査成績も公表さる

審査成績も公表さる

夕③相談所から見た現代婦人の欠陥 浅草寺

婦人相談所主任 生田八栗(談)

夕③扶養教育の欠陥が子供に悪影響 親無き子と笑はれたく無いもの

夕③便り「歌謡」 小野吉郎

夕③動物園「童話」(1) 成田龍平

(12月13日⑧)

5日(水)

朝③上毛美術展賑ふ 審査成績発表に伴ひ更に一層人気を湧立した

夕③童話の発生心理と職分(1) 松村武雄(談)

(12月6日②)

夕③親の感情の儘に子供を叱るな 叱言の云ひ方しつけ方(1) 新井白雲(談)

(12月6日②)

6日(木)

朝②上毛美術展覧会 連日盛況裡にきのふいよ／＼めでたく閉会す

7日(金)

朝④女子聯合青年団唱歌団旗決定

夕③主婦よ誤れる 家庭経済を改めよ 合理的経済観念の養成は刻下の急務 山脇房子(談)

夕③貧に屈するな 当つて碎ける 式処世法礼讃(1) 四恩婦人会 上島徳枝(談)

(12月8日②)

8日(日)

夕③草花の伝説 上和田英樹

夕②新年原稿募集

9日(日)

夕③霜を迎へて ビランデルロの三部作、つち潤と紅蓮洞、スポーツ余談 佐藤雪夫

夕③秋雑唱 佐藤貞蔵氏のじよ勲を祝して三首、秋の一日「短歌」 誉井知

夕③月夜野行其の他「短歌」 青山丈夫

夕③冬の日に 杉田謙作

11日(火)

夕③迫れる年末に際し精神上の総勘定をせよ 悔なき生活は不断の修養が大切 高島米峰(談)

夕③人事相談所に現れた暮の社会相 金銭問題と離婚問題が一番多い 警視庁人事相談係員(談)

12日(水)

夕③家政は如何に処理す可きでせう 先づ予算生活が第一次に能率増進を心掛けること

夕③夕ぐれ、だるまさん「歌謡」 泉潮二

13日(木)

夕③我国の人口問題と食糧との関係(1) 日本女子大校長 麻生正蔵(談)

(12月14日②)

夕③芋ほり「詩」 川場校外山芳枝

夕③最近に於ける婦人雑誌の傾向

14日(金)

夕③政治期節に入り 婦選運動始まる 公民権だけで参政権の実現は前途尚遠

夕③豆法師「童話」(1) 泉潮二

(12月25日⑦)

15日(土)

夕③目覚しき印度婦人の活躍 第一線に立つ

新市長ナイーズ女史のことども

夕③音楽に就いて 牛山充(談)

16日(日)

夕③年末不平払ひ ずすかけの悲哀、郷土の民

謡に就いて 須藤泰一郎

夕③朴の木と神仙「詩」 小野忠孝

夕③「航海」に添へて 横堀真太郎

夕③「航海」の作者 横堀真太郎に「詩」 清

水房之丞

夕③群馬新短歌集のこと 大槻三好

夕③余白をかりて 佐藤雪夫

夕③山の湯にこもりて 市丸武二

夕③百舌、窓辺「詩」 柚木厚太郎

18日(火)

夕③冬期休暇に愛児の家庭教育 父兄方に望

むこと二三 東京高師附属小学校主事

北沢種一(談)

夕③主婦に知らせたい 飲酒の悪影響 子供に

お屠蘇は禁物 岡田道一(談)

19日(水)

夕③よき妻はよき社会人なり 結婚前の処女

に与ふる 三呂木花子(談)

夕③趣味に生きよ 道楽と混同せず 一家団欒

を兼て(1) 守屋東(談) (12月20日②)

20日(木)

夕③大切な家庭経済は買物上手である事 婦

人消費組合 杉原さい(談)

21日(金)

夕③争はれない素質の遺伝 遊蕩者の家系に

現れた悪い遺伝

夕③芸術の概念(1) 東北大学教授 阿部次郎

(談) (12月22日②)

22日(土)

夕③米国政界に及ぼす婦人の勢力 フーバー

氏の当選は誰れの方であつたか(1) 市川

房枝(談) (12月25日②)

23日(日)

夕②農民美術の伝習会を開催す

夕③虫づの走る歳末 東宮七男

夕③十一月「詩」 降旗足穂

夕③戯曲雑感 主として島藤君に 杉田謙作

夕③俚「詩」 川場校 星野せう

夕③故郷の山「短歌」 邦冬子

夕③奥利根の折々「短歌」 茂木信太郎

25日(火)

朝③俄に逝ける高畠素之君を中心に青年時代

の恋もの語りのおもひで(1) (12月27日②)

夕②前橋市出身高畠素之氏逝く 本邦マルク

ス 研究大家 二十三日駒込の自邸に於て

夕②京都に来て 彦部

夕②元禄の二大文豪新に脚色 左団次帰朝劇

夕③変り者には犯罪の素質がある 不良児に

多い精神変質者

27日(木)

朝④政府が調査する産児制限問題

夕①小山内薫氏二十六日突然死去 ぜん息と

動脈硬化症

夕③音楽の正しい鑑賞は偏らない趣味と知識

特殊の音楽許りでは正しい鑑賞は出来

ない 山充(談)

夕③職業別による婦人の収入調べ 東京市社

会局調査

夕③結婚前後の性病罹病率 自堕落男の多さ

悲惨な既婚婦人

昭和4年(1929) 1月

1日(火)

④童話の本領は元来が空想的の世界 心身の

発達にともなひ自らわき出ずる生命力う

そを教ふとの非難は当らぬ 森島前橋幼稚

園長(談)

④巳年の名流婦人

④はつゆめ「詩」 太郎坊

④銀の小蛇の恩がへし「童話」(1) 楠田敏郎

(1月12日④)

④明治天皇御製「短歌」

⑤巳歳にちなむくちなは物語 澤山の珍奇な

話題を提供する多方面に亘る蛇の研究

⑧一万両「落語」 入船亭扇橋(演)

⑧恋愛変奏曲「小説」(1) 畑喜代司

(1月3日②)

⑨おらが村の誇り 母を讃ふ 倉田村 下村金

太郎/名所、三波石 坂井安義

⑨蛇の話 上野動物園主任 黒川義太郎(談)

⑬巳年に因める上毛の伝説(1) お菊の怨み/

薄命の美女小沼に消える道元の娘／赤堀村
五日午洞山の蛇精／大蛇お伊勢の情／縁切
り薬師／妙法の功德大蛇の苦行／榛名湖に
水巻く大蛇／毒島城を護る大蛇／親の仇は
百尺あまりの大蛇／お八重ヶ淵／夜毎にき
こえる妙なる笛の音／血脈を乞ふ美女／美
男小姓の怨み／休泊村八重笠／善男善女に
混ざる美女／毎朝残る大蛇の足跡／燕の土
産は小蛇／御花ヶ池に泣く／之は珍しい大
蛇と荒れ辰の争ひ／訪れる人を待つ弁さん
蛇 宇津木義裕

（～1月26日（16）まで確認）

⑰新年雑詠「俳句」 岡田鶴年

⑱沼田小唄 御殿桜「民謡」 青木寿雄

5日（土）

③娘出来した「講談」（1） 文龍齋禄山（演）

（～1月8日（3））

8日（火）

朝③田家朝「漢詩」書 松村琴荘（試筆）

夕②「画」 市村羽右衛門

夕③元朝や「俳句」書 高橋香山

夕③明暗 島岡利二

夕③スキー喜劇 断髪マダム 佐藤雪夫

夕③もや白く「短歌」書 与謝野晶子

夕③「俳句」 高橋香山（選、総評） 中島利

八、熊倉松香、高橋たつ、佐藤光雄、高

橋邦郎、稻村春太、深川松仙、岡部二葉、

須賀谷嵐史、茂木涓水、木村松月、佐藤

よし子、加藤紫洞、上田とみ、茂木南志、

竹田華春、永井霞峰、瀧川紫水、中島辰
次郎、折茂人臍子、小野源作、茂木徳雄
新井古仙、植木梨菜、伊能英雄、七条睦
雄、清水たま、高橋七峰、小林松雪、小
見昭作、塚越文彰、時沢春三郎、倉林雀
子、佐々木らん、中里いち子、小池輝雄、
稲村光枝、相川わき子、藤井義太郎、伊
能彦造、高山初香、山崎みや、中曾根夜
荘、枯村、寺田光春、石井邦武、荻原楓
古、木村亀道、星野赤陽子、野口三千子

夕③「短歌」新春雑詠 須藤泰一郎（選）

新井華都子、松永貞、新井外一郎、外所

芳得、七条睦雄、星野紫愁、清水たま、

桂君子、加藤実、寺田光春、太田善一樓

篠崎君江、福田多香路、九十九歌子、萩

原晃、坂上亜雲、生方三省、島宗敏夫、

福田謙、南小路薫、石井邦武、紋谷シゲ、

上田とみ、懸川静村、根岸恒雄、伊能彦

造、中島宇平、伊能華堂、岩坪あい子、

小平悟道

夕③新年の歌 須藤泰一郎

9日（水）

夕③ひるながら「短歌」書 斉藤茂吉

夕③新年特作 当世流行 映画狂想曲（1） 原案

香川春夫、制作 本社編輯局

（～1月11日（3））

10日（木）

夕②春駒「画」 島成園

11日（金）

夕①文筆の王者徳富氏引退す 近く国民新聞
を去らん

夕②鱗しぼり「小説」（1） 鈴木悠一郎

（～1月13日（3））

12日（土）

夕②ゑびす「画」 池部鈞

夕③あの娘の前で（1） 生方敏郎

夕③はつはる「画」 鱒崎英朋

夕③はつはる「画」 鱒崎英朋

13日（日）

夕③本社募集一等当選 岩櫃城の伝説 牧丘

艸之介

夕③柿殿「童話」（1） 横沢千秋

夕③柿殿「童話」（1） 横沢千秋

14日（月）

朝②新しき農村 郷土美術の勃興に伴ひ農閑

期に木工品製作の機運やうやく各地にみ

なざる

15日（火）

夕③島に住めば「俳句」書 河東碧梧桐

夕③本社募集一等当選 郷土の誇り 協力一致

の村民 関口文男

16日（水）

夕③本社募集一等当選 二つ橋の由来 佐藤

周吉

夕③梅王丸「画」 鳥居清忠

17日（木）

朝③我が森村西三氏が世界的に進出 巴里に

開かれる日本美術展に代表作家として出

品

夕②「画」伊藤晴雨

18日(金)

朝③元日や「俳句」書 瀬尾南海

朝③江月会第二集(春興宝引)

19日(土)

夕③漫談 芝居に出る蛇(1) 伊藤晴雨

(〜1月24日(4))

20日(日)

夕③ルピナス「画」関口高二郎

夕③随想 金子光晴

夕③郷愁「詩」佐々木緑亭

夕③雑詠「短歌」浦上山夫

夕③朝霜寒く 丘夢夫氏を悼む「短歌」中曾

根白史

夕③雑詠「短歌」新井外一郎

夕③省りみて「短歌」大類よいち

夕③くさぐさのうた「短歌」行津円人

夕③「彼とおきん」を読む 新井哲夫

夕③童話劇の出生を望む 北村洋吉

夕③雪国小景(谷川にて) 部落、山男、スキー

ヤ、獲物「詩」高山要

21日(月)

朝③己が罪か 世の罪か 可哀想な不良児 家

庭円満の大切さを語る

朝③江月会一夕話(2) 北曲山人

<(2)のみ確認>

22日(火)

夕②日本婦人の御典型「昭憲皇太后宮」椎名

龍徳氏の謹著 鶴声社の犠牲的出版

夕②郷土芸術社で音楽会を開く

23日(水)

夕②江月会蛇足記(1) 北曲閑人

(〜1月27日(5))

夕②勢多の短歌会「記事」

夕③小さい宝「童話」(1) 福田正夫

(〜1月24日(2))

24日(木)

夕②江月会写真に題す 北曲閑人

夕③純情の人としての日本武尊 宮夜受比売

に対する愛情が死に導いたか

25日(金)

夕①御大礼後初の新年歌会

夕①預選歌 田家朝「短歌」

夕③医学から見た現代人の生活(1) 高田義一

郎(談) (〜1月30日(4))

夕③拾った金貨のお話「童話」(1) 垂水青街

(〜2月5日(8))

27日(日)

夕③草枕 一月三日 積雪を侵して養老山に登

る、一月五日 京都御所を拝観して、帰途、

近江野をすぎて詠める、夜汽車「短歌」

早水城春

夕③「赤い恋」その他 杉田謙作

夕③愚人のひとりごと 円明閑馬

夕③いなめ会「俳句」 仲春、茂樹、香山、

雨亭、帆十、一枝女、楚水、歌男、木人、

夢丸、一水、如友、寛哉、桜舟、寒鳩

夕③冬日礼讃「詩」 田島武夫

夕③明日への拳闘士 人見久雄君と高橋のど

ら君に此の一編の詩を捧ぐ「詩」 天野

純

夕③ビスカリヤ「詩」 大橋達夫

夕③灰色の朝「詩」 市村京之介

夕③上州織物音頭「民謡」 小野吉郎

夕③債務履行 塚本篤夫民謡集「濡れた行

燈」、中垣辰蔵歌集「青草原」、西川林之

介「お話と童よう」 やなぎ

29日(火)

夕③米国の公民教育と婦人官公吏に就て 市

川房枝(談)

31日(木)

夕③主婦に望む 先づ一致団結して御国の為

めに尽しませう 婦人消費組合 太田良

子(談)

夕③紙上漫談 魚が怒るとどんな風になりま

せう

夕③児童の宗教教育を如何に取扱ふべきか

堀七蔵(談)

昭和4年(1929) 2月

1日(金)

夕③婦選は時代の要求 求めよ!さらば与え

られん 三輪田繁子(談)

夕③音楽の形式美に就いて 牛山充(談)

2日(土)

夕③子供の個性は先天的か後天的か 育て方

によつて変へる事が出来る 青木誠四郎

(談)

夕③ 廃娼運動の歴史 五万の籠の鳥が自由を
歌ふ時は近づいた 久布白落実(談)

3日(日)

朝③ 民謡上州小唄十七日に発表 青年処女が
五百余参集 女師で講習柳座で公開

朝③ 厩城講文会発会式

夕③ 東毛詩壇概観(1) 横堀真太郎

() 2月10日(2)

夕③ 兵隊「詩」 小野忠孝

夕③ 真実の言葉 原静枝

夕③ 街の情痴(1) 伊東伊豆 () 2月17日(3)

夕③ 早春夜情「詩」 田島嘉之

夕③ 釈明 小須田薫

夕③ 月の夜汽車「詩」 柳芳太郎

夕③ 勢多の短歌会(1)「短歌」 古屋(記) /

神保冷平、小見可憐、桑島正子、茂木歌

生、船津重雄、牧丘草之助、大伴武子、

中曾根白史、原好夫、杉本正、小見梅寿、

三友市郎、城郊子、邦冬子、池田広二、

斉藤市郎、大友農夫寿、高橋檳椰子、小

沢朝一露、丸木彫吉、松並麗子

5日(火)

夕② 厩城講文会発会式に臨みて(1) 篠原秀吉

() 2月6日(2)

6日(水)

夕③ 児童を悩ます入学難に就いて 学齡児童
を有つ父兄へ 城南学院 沢辺嘉次郎

(談)

夕③ 精神的貧しさを恥ぢよ 婦人の憂ふべき

一傾向を語る(1) 浅草寺婦人会館主任

生田八栗(談) () 2月7日(2)

夕③ 天へ昇る金魚「童話」 小川龍彦

7日(木)

夕② 厩城講文会発会式に臨みて(3) 森章三郎

() 2月8日(4)

夕③ 戦友のばあや「童話」(1) 高村盈之介

() 2月19日(7)

8日(金)

夕③ 何うしたら沢山子供が生れるか

夕③ 新聞紙の社会文化的使命 今では日常生活

活の必需品 粟屋謙(談)

9日(土)

夕② 厩城講文会発会式に臨みて(5) 大森佳一

() 2月10日(6)

夕③ 子供の記憶力の二方面の観察 機械的と

論理的記憶 青木誠昂(談)

10日(日)

朝③ 十八日高崎市で上州小唄発表

夕③ 大寒の月夜、節分「短歌」 高柳哲

夕③ 春さむ「短歌」 田中幸

夕③ 佐藤雪夫氏のこと(1) 中野篤二

() 2月17日(2)

夕③ 坊や「詩」 南小路薫

夕③ 溪の湯「短歌」 入沢きよ子

夕③ 回顧録 岡部宇一郎

夕③ 雑詠「短歌」 沢田冷子

夕③ 勢多の短歌会「短歌」(2) 関寛、九十九

歌子、下田秀雄、中島黙像、新井聖鐘、

小平、天野水棹、佐藤仁、品川龍夫、小

野吉郎、萩原けん三、小松時雨、大友賢、

岡田清子、金子宗作、古屋栄吉

13日(水)

朝③ 上州小唄発表 民謡と舞踊の夕べ 十七日

夜前橋柳座で

夕② 伊勢崎民謡愈々十三日夜放送「からり

こ」「からりこ」と東京放送局から

夕③ 児童の教育に就いて 学校任せは大禁物

保護者は常によき家庭教師なりしつけ

方に寛厳宜しきを望む 市川源三(談)

夕③ 時言三則 主として教育方面に就て語る

「婦人と新社会」主筆 山田わか(談)

14日(木)

夕③ 実社会に処するに先づ勤労第一であれ

学窓を巣立つ若き女性へ 頌栄高等女学

校々長 沼田立峰(談)

夕③ 新入学児童の保健と衛生に就て 岡田道

一(談)

夕③ ひな、桃「俳句」 芭蕉、蕪村、鬼貫、一

茶

15日(金)

夕③ 婦人公民権上程と今期議会の感想 社会

民衆党中央執行委員長 山田やす子(談)

夕③ 子供の学習は時期や習慣に注意 三つ子

の魂百までとは確かに真理である

16日(土)

夕③ 子供の入学と父兄の心得に就て 学力体

力金力の三条件を熟慮して選定されたい

堀七蔵(談)

17日(日)

朝③民謡と舞踊の夕べ 上州小唄の披露 十七

日午後六時から柳座にて 郷土愛の真紅

のゆらめき 野口雨情、中山晋平来場

夕②新作の上州小唄賑かに明夜披露 上毛新

聞社後援、柳座で「民謡と舞踊の夕べ」

夕③哀詠集「短歌」 船津重夫

夕③雪解の煙り「詩」 狩野とみぢ

夕③独語は冷たい、憎しみと貧と、つきまと

ふ、愚痴、独自、尊敬 南小路薫

夕③愛の歌「詩」 梅津泰助

夕③人生とガマ「詩」 村山十九枝

夕③変調曲「詩」 加藤光造

夕③お茶の時「詩」 物集千種

夕③こころのはなが「詩」 杉浦亮

18日(月)

朝②郷土の香も高い新作上州小唄きのふ女

子師範で発表

19日(火)

夕②三千の会衆を集めて新作小唄の発表 早

春の月もなごむゆうべ 本社後援「民謡

と舞踊の夕べ」民謡の価値は自然を強

調する事 作謡者の野口雨情氏語る

夕②十九日は藤岡で上州小唄披露

夕③伊太利の教育映画国際会議に列席して

国際聯盟協会評議員 友枝高彦(談)

20日(水)

夕②春雨そゞゆうべ高崎の披露会 新作

「上州小唄」の憧れに押しかけた大会衆

二千余人

夕③学窓を巣立つ若き女性へ 克己と実行こ

そは最後の勝利である 大妻コタカ

(談)

夕③魔の森「童話」(1) せきやじゆん

(2月28日(7))

21日(木)

夕②きのふは藤岡で「上州小唄」披露 満場

二千の大会衆声も無く藤岡未曾有の盛況

夕③祖国に対する正しき感激を抱かせよ 児

童教育に欠けてゐる愛国心の涵養 婦人

矯風会婦人ホーム主事 守屋東(談)

夕③特殊の技能なき婦人の就職は困難 地方

から上京する婦人は充分注意され度い

22日(金)

夕③近代的家庭生活は愛と能率の一致 女子

大学桜楓会 早瀬道江(談)

夕③学問だけでは家政は摂れぬ 新らしく家

庭の人となる婦人へ 東京家政学院長、

東京家政専門学校校長 大江すみ子(談)

23日(土)

朝④群馬県民謡の完成に際して 群馬県教育

会 本山薫

朝④上州小唄礼讃 大倉東村

夕②煙の京阪から「上州小唄」に憧れ 蓄音

器に吹き込まないかと京阪神本県人会で

熱望

24日(日)

夕③榛名山から「民謡」書 野口雨情

夕③「上州小唄」に就て 野口雨情

夕③朝の日課「詩」 渋谷栄一

夕③二月の朝、梅の花「詩」 岡部宇一郎

夕③上州小唄寸感 金子和夫

夕③一茶とお妙 井上俊郎

夕③生活、日曜、早春、水仙、枯葉、バット

「詩」 佐藤厄

夕③沼田を中心として はしがき、沼田行会、

礫茂左衛門の刑場、川場 草野心平

夕③赤城短歌会「短歌」 原田弥、柴垣捨子、

金子由太郎、青柳花明、南大樹、関口美

子、阿久沢一郎、松居岩居、新井恒男、

市川たか志、赤木馬彦、庭山緑雨、藤岡

林城、須藤万次、鎌塚あきの、高橋志ん、

登山ひろ子、弥津英子、河原栄二、阿久

沢宇吉、真下流星、河原静歩、栗田登喜

次、鎌塚君江、岩上千秋、浦上山夫、沢

良路

26日(火)

夕③主婦の心得可き食物とカロリー 此の知

識が育児の上に非常に大切である 日本

女子大学教授 井上秀子(談)

27日(水)

朝③形式的女子教育を家庭的に改正 高等女

学校令改正案 近かく審議会に提出

夕③文豪ゲーテと作品を通じた女性観 茅野

蕭々(談)

- 夕③ 神話に現れた離婚の起源 諾冊二神の世に既に行はれた
- 28日(火)
夕③ 先づ尊き母性を多産より救へ 正しき母性擁護は家庭円満の第一歩 日本母性保護協会長 小牧末子(談)
- 昭和4年(1929)3月
1日(金)
夕③ 廿五才禁酒法案の議会提案を望む(1) 高島米峰(談) (3月2日(2))
夕③ 正しき経済は生活の第一目的でなく手段である 全関東婦人修養団 安保操(談)
夕③ 爺さん犬「童話」(1) 高村盈之介 (3月9日(7))
- 2日(土)
夕③ 子弟に高等教育を授けるの可否 時代を知り実地に役立つ人物を造れ 堀七蔵(談)
- 3日(日)
夕③ 南風が吹いては来たが! 私を知る二三の人に 渡辺はる子
- 夕③ 紅椿「詩」 大槻三好
夕③ 上州小唄替歌「民謡」 梅津錦一
夕③ 糸ひき小唄 前橋をうたふ 「民謡」 川辺潤三郎、柳芳太郎
夕③ 沼田よいとこ「民謡」 植村婉外
夕③ 上州小唄管見 柳田俊三
夕③ 梅津泰助詩集 高原の詩について 塩野筍三
- 夕③ 日曜会、第八回短歌会詠草「短歌」 早水城春、松浦巖、中野照雄、懸川静村、田島武夫、根岸英二、松浦元男、星野芳枝、星野末雄、上原七太郎、鈴木旭山、小須田衛
- 4日(月)
朝④ 性愛小説 毒薔薇「小説」(1) 羽大鏡治 (翌年1月22日(3))
- 5日(火)
夕② 劇壇の人氣男沢正ついに死す
夕③ 美容法から見たスポーツの価値 各自体質に相応したものを撰べ 東京市衛生試験所 永見団次郎(談)
- 6日(水)
夕② 文盲の人六割は貧ゆるゑの不就学 犯罪者も大部分は無学者 徴兵検査が示す注目すべき現象
夕③ 婦人公民権問題は遂に葬られたしかし 婦人参政の時機は近づいた 市川房枝(談)
- 7日(木)
夕③ 職業婦人を志して都会に憧るゝ若き女性に与ふ 墮落するのは都会の罪でなく自己の無自覚と無反省に因す 東京府職業紹介所主事 川野温興(談)
- 8日(金)
夕③ 親善関係を有するブラジルと日本人 移民の同胞は八万人 何れも異常な発展を示してゐる 井上雅二(談)
- 夕③ 小学校卒業生と職業選択の問題 父兄及び就職指導者は充分其将来を思へ
- 9日(土)
夕③ 恐る可き花柳病 其の惨禍を見よ 女医 竹内茂代(談)
- 10日(日)
夕③ 郷の地を踏みて 相川とくを
夕③ 野人放語 金子和夫
夕③ 上州小唄への挑戦 白波歐鳥
夕③ 川柳美屋満吟社(伊勢崎町) 須田耕花、浅野芽柳、中村鳩丸、天田兎亀庵、土山笑山、中川澄水
夕③ 碧流庵小会「短歌」 冬子(記) / 船津重雄、邦冬子、けん三、小松時雨
夕③ 雨後の朝「詩」 渋谷栄一
夕③ 雛市「詩」 森千魁
夕③ 遠のいて行く風景「詩」 市村京之介
夕③ 朝「詩」 茂木とく
夕③ 夕ぐれ「詩」 住谷哲美
夕③ おとづれ「詩」 菊園優
夕③ 民謡三誦 嫁とり、止むに止まれぬ、風の吹く日「民謡」 樹海競一
夕③ おぼろ春の夜「詩」 木部富平
- 12日(火)
夕③ 真情もて愛児を指導せよ 世の多くの母親に与ふ 市川源三(談)
夕③ 婦人の労働問題と社会正義に就て 国際労働局極東課長 鮎沢巖(談)
夕③ ガラス屋の小僧「童話」(1) 井上康文

- 13日(水) (3月16日(5))
 夕③流行を追ふな流行に追はれるな 近時婦人の哀しむべき一傾向に就て 東京聯合婦人会館婦人相談部長 川崎完子(談)
- 14日(木)
 朝③上州小唄の補遺 赤城桑畑が追加さるレコードにもなつて
 夕③非社会的な入学試験制度 教育の機会均等を叫ぶ 栗原岩蔵(談)
 夕③未曾有の新聞時代 新聞を読む人新聞に読まる 板倉卓造(談)
- 15日(金)
 夕②知識階級の子弟には天才児童が多い 低脳児童はブル階級に興味ある文部省の調査
 夕③日常の浪費は経済上の罪悪 合理的な食費経済法 日本女子大学教授 井上秀子(談)
- 16日(土)
 夕③營養学上の旧説と新説 フォイト氏とヒンドヘー氏の所説(1) (3月19日(2))
- 17日(日)
 朝③変り者の絵行脚 上海から満州へ 青年画家 家岸田久クン
 夕③民謡論争を読みて 金井しげを
 夕③まづしくも叫ぶ 尾内龍雄
 夕③禿筆を洗ふ 降旗足穂
 夕③吹屋短歌会「短歌」 竹城(記) / 神保
- 冷平、宮下芳緒、茂木歌生、丸木彫吉、角田節子、後藤福太郎、長吹秋流、伊能彦造、品川翠穂、二ノ宮浅吉、宮路峰子、小沢朝一露、小見梅寿、村上きぬ、村上良円、阿久津心影、大友賢六
 夕③十日会漫談会「歌」 松浪(記) / 秋山、藤倉、金子金星、松浪、田島
 夕③禁断の丘へ上る「詩」 市村京之介
 夕③山村の冬景「詩」 柚木厚太郎
 夕③梅「詩」 青木寿雄
 夕③ある村の景(利根川辺の友に送る)「詩」 永田かつみ
 夕③青天白日「詩」 渋沢しま子
 夕③春が来たとして「民謡」 狩野とみぢ
 夕③風吹く(書かでもの記) 柳田俊三
- 19日(火)
 夕③婦人運動者の深夜業廃止に就て 社会民衆婦人同盟 山田やす子(談)
 夕③赤いマント「童話」(1) 山本雅樹 (3月28日(7))
- 20日(水)
 夕③子供の教育上に新聞利用の方法 新聞の大なる力を生かせ
 夕③九如会出品画 茶の花のある静物 石丸夏子さん(十二歳)
- 21日(木)
 夕③国民保健の爲め医薬国営を主張す 診療費も薬価も高い 鈴木梅四郎(談)
- 23日(土)
 夕③社会教育上から見た演芸放送の意義 種目の選択が肝要である 倉橋惣三(談)
 夕③就学児童の保健と衛生 岡田道一(談)
 夕③文学研究者は語学を勉強せよ 翻訳は原作の香りを失なひ又は薄くする 阿部次郎(談)
- 24日(日)
 夕③婦人公民権の戦は果して惨敗か 婦選獲得同盟幹事 金子しげり(談)
- 27日(水)
 夕③子供の部屋には子供の爲めの絵を 童心の良き榮養の爲に 日本童画家協会 井武雄(談)
 夕③主婦としての米国婦人 教育は男子より広い 市川房枝(談)
- 28日(木)
 夕③学窓を巣立つ若き女性に(1) 三輪田元道(談) (3月29日(2))
- 29日(金)
 夕③一つの問題 性道德の頽廃に就いて 山田わか子(談)
- 30日(土)
 夕③学窓を巣立つ若き女性に 市川源三(談) (4月9日(7))
- 31日(日)
 夕③毎年実社会に出る子供の数百万子供の爲めに職業教育充実を要す

- 夕③塩河原湯にて 竹内越村
夕③閑雅亭漫筆 相川徳夫
夕③春の小景「詩」 永田かつみ
夕③洛中詩懐 辰巳赤夫
夕③文芸講演を聴く 金井しげを
夕③自嘲他笑「短歌」 金子和夫
夕③病ひ悲し「短歌」 松村草穂
夕③こぞのうた(二) 「短歌」 牧野菊
夕③哀悼歌「短歌」 浦野安
夕③大栖達夫氏追悼短歌会詠草「短歌」 小野(記) / 大栖達夫、大栖葵子、岸とらを、小野文之助、阿部平寺、小野忠孝、柳清子、松井佐次郎、樋口福馬、小林秀光、近岡よしゑ、松井福一郎、過外禅海